富山市埋蔵文化財調査報告80

# 富山市内遺跡発掘調査概要XVI

— 吉作遺跡 —

2016

富山市教育委員会

富山市埋蔵文化財調査報告80

# 富山市內遺跡発掘調査概要XVI

--- 吉 作 遺 跡 ---

2 0 1 6

富山市教育委員会

## 例 言

1 本書は、平成25年度に実施した個人住宅建築に先立つ吉作遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査及び整理調査は、富山市教育委員会が国庫補助金・県費補助金の交付を受けて実施した。

3 調査の期間、発掘面積、調査担当者は次のとおりである。

遺跡所在地

富山市住吉地内

発掘調査期間

平成 25 年 12 月 5 日~ 12 月 27 日

調査面積

65.82m²

担当者

細辻嘉門(富山市教育委員会 埋蔵文化財センター 主査学芸員)

三上智丈・中野喬介(以上同嘱託)

整理調查期間

平成 27 年 10 月 1 日~平成 28 年 3 月 31 日

担当者

細辻嘉門

三上智丈・納屋内高史

4 現地発掘調査及び整理調査に際し、下記の諸氏・諸機関のご指導・ご協力をいただいた。記して 謝意を表します(五十音順、敬称略)。

住吉町内会、富山県教育委員会生涯学習・文化財室、富山県埋蔵文化財センター、堀沢祐一

- 5 出土遺物・原図・写真類は富山市教育委員会が保管している。
- 6 本書の執筆は細辻、三上、納屋内が行った。各々の文責は文末に記した。編集は細辻が行った。
- 7 平成25年度に刊行した富山市教育委員会2014『富山市内遺跡発掘調査XI―北代村巻V遺跡 友坂遺跡 吉作遺跡―』富山市埋蔵文化財調査報告61と本書の内容が異なる場合は、本書に掲載された内容をもって正式な報告とする。

# 凡例

- 1 本書で用いた座標は世界測地系である。挿図の方位は真北、水平基準は海抜高である。
- 2 層序および遺物観察表で記載した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1995 年版』に拠る。
- 3 遺構記号は、溝:SD、土坑:SK、ピット:SP、その他の遺構:SXを用いた。
- 4 図中の網掛けは、次のとおりである。

地山

赤彩

# 目 次

第1章 調査の経過							
第1節 調査にいたる経緯				• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •			. 1
第2節 発掘作業及び整理等作業の経過…							• 1
第2章 遺跡の位置と環境							
第1節 地理的環境							. 3
第2節 歴史的環境						3 ~	~ 4
第3章 調査の方法と成果							
第1節 調査の方法							. 7
第 2 節 層序 ·······							
第3節 遺構							
第 4 節 遺物 ······							
第 4 章 総括						49 ~	50
引用・参考文献							
報告書抄録							
红	lsvi	_	\ <i>H</i>				
挿	凶	目	次				
図 1 調査区位置図	2	図 1/	出土造	物字測図	(3)		26
図 2 調査区周辺の地形	2			物実測図			27
図 3 周辺の遺跡分布図	5			物実測図	(5)		28
図4試掘トレンチ位置図・柱状図	11			物実測図	(6)		29
図 5 調査区全体概略図・基本層序模式図 …	12			物実測図	(7)		30
図6遺構平面図・断面図・遺物出土状況図…	13			物実測図	(8)		31
	13 14			物実測図	(9)		32
				物実測図	(10)		33
図8遺構平面図・断面図・遺物出土状況図… 図9遺構平面図・断面図	15 16			物美測図	(10)		34
				物実測図	(11)		35
図 10 遺構平面図・断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	17 18			物実測図	, ,		36
図 12 出土遺物実測図(1)	24			物実測図			37
	2 <del>4</del> 25			物実測図	. ,		38
図 13 出土遺物実測図 (2)	23	凶 20	四上思	彻关侧凶	(13)		30
+	_	-	\ <i>\</i>				
表	E	∃	次				
表1遺構一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10	表り~	~ 19	物組突害		39 ~	- 48
<b>八</b> 1 息冊 克八	10	11. 2	12 18	7万年几六 3入		00	10
· ·	= जि	ш= =	1 \ <del>/</del>				
<del>分</del> 吳		版目	八				
写真図版 1 調査区周辺の航空写真	6	写直图	図版 8	出土遺物	勿 3		58
写真図版 2 遺構 1	52		図版 9	出土遺物			59
写真図版 3 遺構 2	53		図版 10	出土遺物	-		60
写真図版 4 遺構 3			図版 11	出土遺物			61
写真図版 5 遺構 4	55		図版 12	出土遺物			62
写真図版 6 出土遺物 1	56		図版 13	出土遺物			63
写真図版 7 出土遺物 2			図版 14	出土遺物			64
		, , , ,					

### 第1章 調査の経過

#### 第1節 調査にいたる経緯

吉作遺跡(遺跡番号 2010111) は、昭和 51 年 3 月に富山市教育委員会(以下:市教委)が刊行した『富山市遺跡地図』にはNo. 75 として設定され登載されており古くから知られた遺跡である。平成 5 年市教委が刊行した『富山市遺跡地図(改訂版)』には、遺跡No. 201323 として掲載・周知された。平成 25 年度の遺跡地図改訂により現在の遺跡番号となった。現在の埋蔵文化財包蔵地面積は 2,500㎡である。

平成25年10月9日、富山市住吉地内において、個人住宅建設について埋蔵文化財包蔵地の所在確認依頼があった。建設予定地全域391㎡が吉作遺跡に含まれていたため、同年11月5日に市教委で試掘調査を実施したところ、縄文時代の遺物包含層と土坑・ピットなどを検出し、縄文土器、須恵器が出土した。建設予定地全域に埋蔵文化財の所在を確認したため、試掘調査の結果に基づき、工事主体者と建設にかかる埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。協議の結果、宅地の外周部分の擁壁工事計画が遺構検出面よりも深く、埋蔵文化財を現地で保存することができないため、擁壁工事部分65.82㎡について発掘調査を行い、記録保存することとなった。

文化財保護法 93 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘の届出は、工事主体者から平成 25 年 10 月 30 日付けで市教委へ提出され、市教委の副申を付けて平成 25 年 11 月 7 日付け埋文第 313 号で富山県教育委員会へ提出した。

文化財保護法 99 条第 1 項に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告は、富山市教委から平成 25 年 12 月 12 日付け埋文第 313 号により富山県教育委員会へ提出した。

#### 第2節 発掘作業及び整理等作業の経過

発掘作業は土木会社に掘削業務を委託し、埋蔵文化財センター職員が現地に常駐して発掘調査の監理にあたった。調査着手前に業務を受託した会社、ハウスメーカーと調査が必要な範囲について現地確認を行い、発掘調査区を設定した。

発掘作業は平成 25 年 12 月 5 日から同年 12 月 27 日まで行なった。

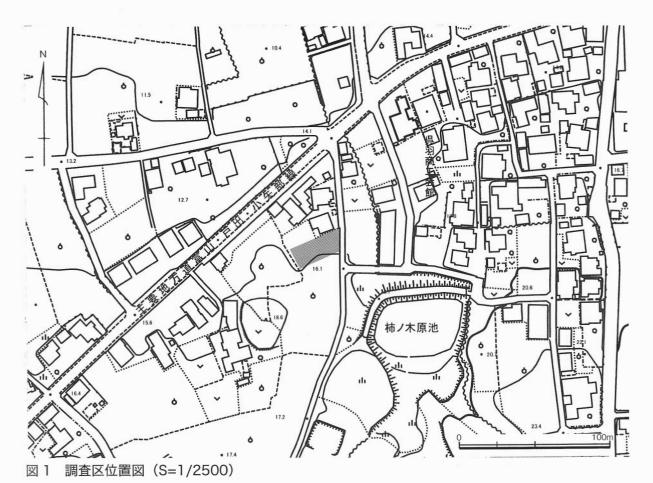
表土掘削は平成25年12月5日に開始し、バックホウを用いて行った。掘削した表土は調査区外の 敷地内に横置きした。12月6日に表土掘削を完了した。

表土掘削完了後、12月9日から、人力による遺物包含層掘削を開始した。包含層掘削の際、遺物は任意に5mグリッドを設定し、グリッドごとに取り上げた。試掘調査結果では遺物包含層が調査区北西に向かって厚く堆積することが確認されていたが、掘削作業を始めると、激しい湧水により、掘削作業は困難を極めた。包含層掘削作業が完了した部分から遺構検出作業を行い、その後遺構掘削作業を開始した。遺構掘削作業と並行して随時写真撮影・測量・図面作成作業を行った。

12月26日には遺構掘削を終え、高所作業車による全景写真を撮影した。12月27日に撤収作業を 行い、現地調査を完了した。

現地調査終了後、遺物洗浄、注記、接合などの基礎整理作業を平成26年3月末まで埋蔵文化財センター行い、平成25年度に『富山市内遺跡発掘調査XI—北代村巻V遺跡 友坂遺跡 吉作遺跡—富山市埋蔵文化財調査報告61』で遺構の概略と、代表的な遺物の写真を掲載して概要報告として刊行した。

整理調査および発掘調査報告書作成は、埋蔵文化財センターで平成27年10月1日から作業を開始し、整理作業員を雇用して出土遺物の図化、トレース作業を行った。遺物写真はデジタルカメラ(2400万画素)を使用し撮影した。これらの作業と並行して原稿作成を行い、平成28年3月31日に本書を刊行し、調査を完了した。



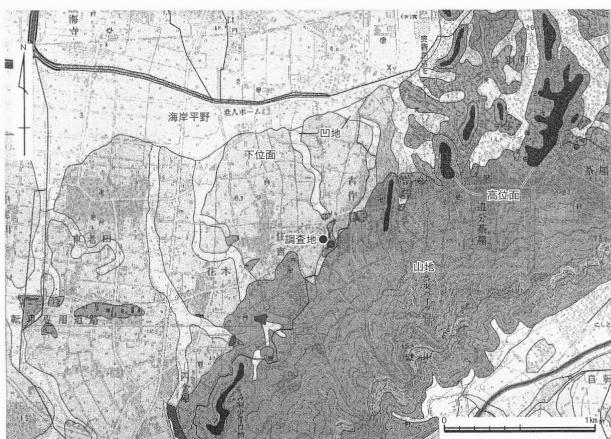


図 2 調査区周辺の地形 (S=1/25000 国土地理院 2007 に加筆)

### 第2章 遺跡の位置と環境

#### 第1節 地理的環境

富山市は富山県のほぼ中央部に位置する。富山市の地勢は、大まかに山間部と平野部に大別され、南が高く、北が低くなるという地勢を示しており、海岸から標高3,000 m級の高山地帯までバラエティに富む。

富山平野は富山県中央部の大部分を占めており、北は富山湾に面し、東端は早月川扇状地、西端は県のほぼ中央を二分する呉羽丘陵に、南は飛騨山地から続く丘陵に接する。神通川・常願寺川とその支流が形成した扇状地や低位面・氾濫平野の発達が顕著である。

吉作遺跡 (図 3·1) は、富山市街地から西方約 5kmの富山市西部、富山市住吉・吉作地内の東西 60 m、南北 100 mに広がる縄文・奈良・平安の集落・窯跡である。

今回調査区の所在する住吉地区は、富山湾から 6km 内陸に入った、呉羽丘陵西麓の下位面、浅い谷、 凹地、山地上に立地する(図 2)。

呉羽丘陵は、東側麓に「呉羽山断層」が存在し、東側斜面は急傾斜、西側斜面は緩傾斜地形となる。地区周辺一帯の地形は、東は最高所を城山(標高 145.3 m)とする呉羽丘陵の山地や高位面があり、北西に向かって傾斜し下位面を形成する。現在は一見平坦に見えるが、下位面には呉羽丘陵を源流とする小さな開析谷が無数に入り込み、放生津潟に向かって流れ込んで多くの馬背状丘陵地形と谷底平野を発達させている。また、地区の南方には「境野新扇状地」と呼ばれる旧扇状地が存在し、幅の狭い谷や水流が認められる。

住吉地区のほぼ中央を、主要地方道富山戸出小矢部線が北東から南西に貫き、地区の南西 2.0km で主要地方道富山小杉線と交差する。地区の北方 1.3km には、あいの風富山鉄道が東西に走っている。主要地方道新湊平岡線と呉羽丘陵の間には道に沿って家々が建ち並んでいる。米軍が 1946 年に撮影した航空写真(図版 13)を見ると、当時は丘陵地帯に畑地がひろがり、平地には水田が広がるのどかな耕作地であった。また江戸時代には谷地形を利用して多くの灌漑用溜池が作られ、多くは開発や造成工事のため埋め立てられたが、現在でも大小 10 あまりの溜池が残っている。調査区のすぐ南東にも、柿ノ木原池が現存する。南西 1.6km には、動物たちとの触れ合いの場として富山市ファミリーパークがある。また南西 1.2km には富山市ガラス造形研究所や富山市ガラス工房があり、芸術創造の場として利用されている。地区の南南西 3.0km には富山大学医学部付属病院があり、中核病院として地域医療を担っている。

近年は、高速道路やインターチェンジなどがあり利便性が高いため、幹線道路沿いには店舗が建てられ、富山西インターチェンジの周辺には企業団地が開発されるなど、土地利用はかつてののどかな耕作地からかなり変化している。

今回の調査地は住吉地区東端の旧凹地上、遺跡の中央に位置する。調査前の現況は畑地として利用されていた。調査区付近の標高は約16 mで、西に向かって緩やかに傾斜する。

#### 第2節 歴史的環境

吉作遺跡を中心として、呉羽丘陵一帯の遺跡について概観する。

本遺跡では昭和61年度に今回調査区の北で宅地造成に伴う試掘調査を行い、縄文時代後期の竪穴建物・土坑を検出し、縄文土器・石器、須恵器が出土した。遺構は現地に保存された。〔富山市教委1987〕。

本遺跡が立地する呉羽丘陵西麓一帯は、旧石器時代から中世まで遺跡の分布が濃密である。

境野新遺跡(2)では、東山系石刃技法の技法で作られたナイフ型石器が出土した。向野池遺跡では、

瀬戸内系横長剥片剥離技法による剥片が出土した〔富山市教委 2000a〕。このほか杉谷H遺跡、古沢遺跡(3)、古沢A遺跡(4)などで石器が出土した。

引き続き縄文時代にも各時期にわたって遺跡が見られる。本遺跡の南南西 1.8km にある古沢遺跡では、縄文時代前期の貯蔵穴を検出した〔富山市教委 1977〕。平岡遺跡では前期の集落を検出した。開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡では、縄文時代中期の集落を検出した。射水丘陵東端の丘陵上に営まれた中核的集落をまるごと発掘調査し、竪穴建物 75 棟、大型の掘立柱建物を確認し、コハク玉が出土した。北押川B遺跡でも中期の遺構・遺物がある。後・晩期には、開ヶ丘中山 I 遺跡で、縄文時代後期後半の竪穴建物 3 棟、縄文時代晩期後葉の竪穴建物 4 棟を検出した〔富山市教委 2003〕。古沢遺跡では、竪穴状遺構から大洞 A 式期併行の土器が出土した。古沢 A 遺跡では巨大柱穴を検出した〔富山市教委1983 a〕。このほか野下・新開遺跡や杉谷 64 番遺跡(5)、杉谷 81 番遺跡(6)でも晩期の遺構・遺物を確認した。

弥生時代に入ると、初期農耕に不適なためか、前期~中期の遺跡の分布は低調で、遺物が散発的に出土する程度である。後期初頭に入ると、向野池遺跡では竪穴建物を検出し、東北地方に多く分布する天王山系の土器が出土した〔富山市教委 2006〕。後期後半には、白鳥城(7)で高地性集落を検出した〔富山市教委 1983b〕。弥生時代後期後半から終末期になると、遺跡数が増加する。平野には砂川カタダ遺跡(8)などの集落がある〔富山市教委 2011〕。丘陵上には杉谷A遺跡(9)で方形周溝墓群などを検出した〔富山市教委 1975〕。

続く古墳時代前期には四隅突出墳の杉谷 4 号墳を含む杉谷古墳群(10)が築かれた〔富山市教委1974〕。古墳時代中期には、境野新遺跡・東老田 I 遺跡(11)などに集落が営まれ、前方後円墳の古沢塚山古墳が築かれた。古墳時代後期には、平野に面した崖面に金屋陣ノ穴横穴墓(12)が作られた〔富山市教委1976〕。

古代には遺跡周辺から射水丘陵東部にかけては、飛鳥・奈良・平安時代の越中における手工業生産(製陶・製鉄・製炭)の中心地帯となり、遺跡の周囲には生産遺跡が集中する。本遺跡の南西 0.7kmには飛鳥時代に操業された県史跡の金草第一古窯跡(13)がある〔富山市教委 1970〕。奈良時代には南西 1.5km に位置する古沢・西金屋窯跡群(14)が広がり、大量の須恵器が出土した。西金屋窯跡では、平成 5 年に市道改良工事の際に須恵器窯跡を検出した。出土遺物の中には、四脚をもつ円面硯が 2 個体ある。大形で、官衙的性格の施設に供給された可能性がある [富山市教委 2000b]。このほか、西金屋遺跡では、緩斜面上に奈良時代の土師器焼成遺構や集落が検出されている。古沢・西金屋窯跡群から西金屋遺跡にかけては、旧谷地形沿いに傾斜を利用した須恵器窯が操業し、丘陵には、緩斜面上に土師器焼成遺構が広がり、丘陵頂部に集落が立地していたと考えられる。向野池遺跡では、両面廂の大形掘立柱建物が検出された。生産遺跡を管理する公的な建物であると考えられている〔富山市教委 2006〕。本遺跡の南西 2.5kmには市史跡栃谷南遺跡がある。8 世紀に操業した瓦陶兼業窯で、須恵器・土師器・製鉄関連の遺物のほか 200 点以上の軒丸瓦が出土した。古代越中における窯業生産の歴史や仏教文化の浸透の様相を解明する上で重要な遺跡である〔富山市教育委員会 2002c〕。仏教関連の遺物では、向野池遺跡で瓦塔が出土した〔富山市教委 2002a〕。花ノ木C遺跡(15)では、奈良時代の溝から人形・斎串が出土し、律令祭祀が行われていた〔堀沢 2004 a〕。

中世〜近世の遺跡としては、呉羽丘陵頂部に白鳥城が築かれ、豊臣秀吉が佐々成政攻略の際、前田氏が拠点にしたとされる〔富山市教委 1981〕。井田川左岸には大峪城や安田城(16・国史跡)が築かれ、同じく佐々成政攻略の際の出城として、前田氏の家臣が入城した。中世の集落としては鎌倉〜室町時代の金屋南遺跡(17)がある。溝で区画された計画的構造の集落で、掘立柱建物、井戸跡、畠跡、道路跡や製鉄関連遺構を検出した。白鳥城や大峪城、安田城の中間に位置するため、関連が推察できる〔富山市教委 2007〕。

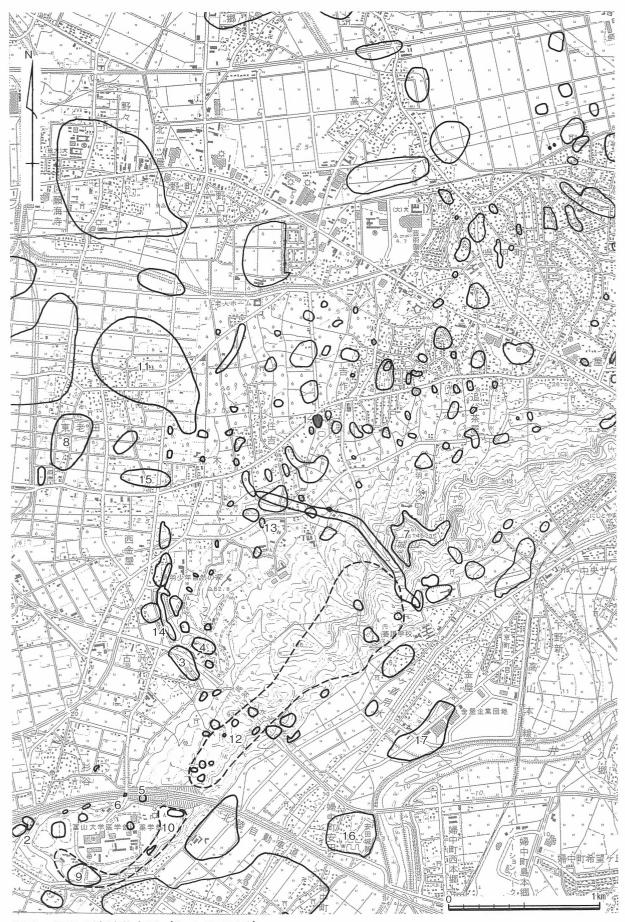


図3 周辺の遺跡分布図 (S=1/25000)



# 第3章 調査の方法と成果

#### 第1節 調査の方法

発掘調査は、最初に試掘調査の結果をふまえながら耕作土を遺物包含層直上までバックホウにより掘削・除去した。その後、遺物包含層から人力による掘削を行った。調査区西側部分はバックホウで地山面まで掘削したところ、後世の造成工事と思われる撹乱土が厚く堆積し、遺構が残っていないことを確認したため、機械掘削のみで調査を完了した。

調査区全体に遺物包含層が厚く堆積していたため、スコップ等を使用し包含層掘削を行った。遺物包含層掘削を完了した部分から引き続いて遺構検出・遺構掘削を行った。調査区の幅が 0.5~1.0m と狭いため、各遺構断面は、調査区内に点在するピット・小規模土坑を除き、遺構掘削完了後、調査区壁面で観察し、断面を写真と図面に記録した。ピット・小規模土坑は半截した後、断面を写真と図面に記録した。遺物が出土した遺構は、遺物が多く集中して出土した遺構について、遺物出土状況を写真と図面に記録した後、遺物を取り上げて完掘した。遺物は、トータルステーションを使用して出土位置と高さを記録した。

測量基準点は、国家座標第WI系を使用した。図面は、トータルステーションを使用して、平面図・断面図は縮尺 20 分の 1、遺物出土状況図は縮尺 10 分の 1 にて作成した。

カメラは現地調査ではデジタルカメラ・ブローニ―(6 × 7)サイズを使用し、フィルムはカラーリバーサルと白黒を使用した。遺物写真は、デジタルカメラ(2400万画素)を使用した。 (細土)

#### 第2節 層序(図4)

調査区の基本層序は、調査区壁面を用いて観察した。調査区の土層は、調査区一部で見られた梨の木の植樹や造成工事等による撹乱を除き、大まかに以下の3つの層に分類できる。今回の調査では、 II層の上面で遺構検出を行った。同一検出面のため、出土遺物のない遺構は時代を特定できなかった。

I層:暗褐色粘質土(耕作土・表土)

I - ②層: 黒褐色粘質土(遺物包含層·遺構埋土)

Ⅱ層:にぶい黄橙色粘土~砂質土(地山)

なお、調査区の周辺地域では現在、梨の植樹をしており、これらを棚仕立て(果樹の整枝法の一。 竹・木・針金などで網の目のように棚を作り、果樹の枝をその棚に沿わせる:「大辞林」)とよばれる植樹 方法で栽培しているため、これらの枝や樹を保持するための棚を固定するセメントブロックが調査区 内に埋まっていた。また、この植樹方法が原因と思われる撹乱を調査区内で確認した。調査区内では 至る所で湧水が発生しており、特に調査区西側及び北西側は湧水が著しかった。

#### 第3節 遺構(図4~11、表1、図版2~5)

検出した遺構は、縄文時代後期中葉から晩期の旧谷地形、土坑、溝、ピットがある。これらの遺構は前述の調査区西側を除いて、調査区全域でまんべんなく検出した。また、調査区東側で確認した遺構は生活道路に面しており、遺構の一部が、撹乱を受けていた。

さらに、調査区の幅が $0.5 \sim 1.0$ m と狭く、前述の湧水に加えて、発掘調査期間内には悪天候が続いたため、遺構検出作業は困難を極めた。これらの理由から、ピット以外は遺構の種別・大きさなどの全容は明確に確認できなかった。

#### 1 旧谷地形 SX01 (図 6)

調査区北西側で検出。検出長 1.0m、検出幅 15.0m、深さ 1.25m である。南東から北西に向かって

流れる旧谷地形である。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明である。平面形は不明。 断面形は部分的に凹凸があるが、全体的に舟底形である。遺構埋土は2層である。上層は黒色粘質土 に炭化物等を含む。下層は黒褐色砂質土に地山の土が縞状に混じり、締り良である。遺構埋土から縄 文時代後期中葉~晩期中葉の土器・有孔球状土製品、有頭石棒、石刀、磨石、剥片が大量に出土した。 ただし、遺物の出土する高さは一定ではなく、縄文時代後期中葉~晩期中葉を通じて埋土が堆積した と考えられる。遺構の主体時期は縄文時代後期後葉から晩期中葉まで継続したと考えられる。

この遺構の南東側の試掘 1 トレンチ(図 4)では、GL から深さ  $80 \sim 100$ cmで地山層に達し、断面観察では、トレンチ壁面に SX01 と同様の縄文土器を含む埋土を確認した。従って、谷地形は少なくとも南東方向に広がる可能性が高い。

#### 2 土坑

SKO3 (図 6・7) 調査区北側中央で検出。検出長 1.0 m、検出幅 7.0 m、深さ 1.0 mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明である。平面形は不明。断面形は部分的に凹凸があるが、全体的に U 字形である。遺構埋土は一部攪乱を除き、 2 層である。上層は黒色粘質土に炭化物等を含み、下層は黒褐色砂質土に地山の土が縞状に混じり、締り良である。遺構埋土から縄文土器、土偶脚部、石棒・剥片が出土した。主体時期は縄文時代晩期前葉と考えられる。

SKO5 (図8) 調査区北側中央で検出。検出長 0.5 m、検出幅 5.0 m、深さ 1.0 mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明である。平面形は不明。断面形は部分的に凹凸があるが、全体的に U 字形である。遺構埋土は 2 層である。上層は黒色粘質土に炭化物等を含み、下層は黒褐色砂質土に地山の土が縞状に混じり、締り良である。上・下層とも縄文土器、磨製石斧・磨石が出土したほか、包含層でイノシシ形獣面突起が出土した。主体時期は縄文時代晩期中葉と考えられる。

SK14 (図9) 調査区南東側で検出。検出長 0.8 m、検出幅 0.2 m、深さ 0.2 mである。遺構の南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると考えられる。断面形は不整形である。遺構埋土は黒褐色粘質土の単層である。主体時期は縄文晩期中葉と考えられる。

SK15・16 (図9) 調査区南東側で検出。検出長6.0 m、検出幅0.5 m、深さ1.0 mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明である。平面形は不明。断面形は部分的に凹凸があるが、全体的に緩いU字形である。遺構配置的にSK05 に繋がる溝状遺構の可能性がある。遺構埋土は北側各所で攪乱されているが、基本的に遺構埋土は2層である。上層は黒色粘質土に炭化物等を含み、下層は黒褐色砂質土に地山の土が縞状に混じり、締り良である。SK15 の上層からは縄文土器が、SK15 の下層及びSK16 からは縄文土器および須恵器甕が出土した。須恵器甕については、自然形状の落ち込みと思われる箇所での1 点のみの出土である。出土状況からみて、本調査区外南側からの後世による流れ込みであると推定する。主体時期は縄文時代晩期前葉と考えられる。

SK17 (図 10) 調査区南側中央で検出。検出長 0.6 m、検出幅 0.25 m、深さ 0.15 mである。遺構の南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は不整形を呈すると考えられる。

断面形は台形である。縄文土器、古代土師器が出土したが、遺構埋土には撹乱土が入り込むため、後世による撹乱の可能性もある。

SK18 (図 10) 調査区南西側で検出。検出長 0.3 m、検出幅 0.4 m、深さ 0.2 mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は直線を呈すると考えられる。断面形は不整形である。遺構埋土は黒褐色砂質土に地山ブロックが混じる単層である。縄文土器、焼粘土塊が出土した。主体時期は縄文時代後期と考えられる。

SK19 (図 10) 調査区南側中央で検出。検出長 0.5 m、検出幅 1.1 m、深さ 0.45 mである。遺構の

北側および南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は円形を呈すると考えられる。断面 形は台形である。遺構の北東側および遺構埋土上層部は後世の撹乱を受けているが、遺構の南西側及 び遺構埋土下層部は黒色粘土の単層である。縄文土器、焼粘土塊が出土した。

- SK20 (図 10) 調査区南西側で検出。検出長 0.7 m、検出幅 0.4 m、深さ 0.25 mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明であるが平面形は楕円形を呈すると考えられる。断面形は U字形である。遺構埋土は締りの良い黒色粘質土の単層である。出土遺物はなかった。
- SK21 (図 10) 調査区南西側で検出。検出長 2.3 m、検出幅 0.3 m、深さ 0.05 mである。遺構の北側は調査区外であり、全容は不明であるが平面形は直線を呈すると考えられる。断面形及び遺構埋土は遺構そのものが浅いため不明。出土遺物はなかった。
- SK22 (図 10) 調査区南西側で検出。検出長 0.8 m、検出幅 0.3 m、深さ 0.2 mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明であるが平面形は不整形を呈すると考えられる。断面形は U 字形である。遺構埋土は地山が粒状に入った締りの良い黒色粘質土の単層である。縄文土器が出土した。
- SK23 (図 10) 調査区南西側で検出。検出長 0.5 m、検出幅 0.3 m、深さ 0.2 mである。遺構の南側は調査区外であり、全容は不明であるが平面形は不整形を呈すると考えられる。また、本遺構の南西側は後世の撹乱により破損している。断面形は台形である。遺構埋土は黒褐色砂質土の単層である。縄文土器が出土した。
- SK26 (図 11) 調査区東側南寄りで検出。検出長 0.5 m、検出幅 0.8 m、深さ 0.45 mである。遺構の西側は調査区外であり、全容は不明であるが平面形は楕円形を呈すると考えられる。また、遺構の北東側は後世の撹乱により破損している。断面形は U 字形である。遺構埋土は地山が粒状に入った黒色粘質土の単層である。またその層内では炭化物も確認した。縄文土器、剥片が出土した。
- SK27 (図 10) 調査区南側中央で検出。検出長 0.45 m、検出幅 0.35 m、深さ 0.35 mである。遺構の南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると考えられる。

断面形は不整形であるが、調査区南側壁面の観察による層位の明確な確認はできなかった。出土遺物 はなかった。

SK28 (図 11) 調査区東側北寄りで検出。検出長 0.5 m、検出幅 0.5 m、深さ 0.2 mである。遺構の東側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は円形を呈すると考えられる。断面形は台形である。遺構埋土はにぶい黄褐色砂質土の単層である。縄文土器が出土した。主体時期は縄文時代後期と考えられる。後世による撹乱の可能性がある。

#### 3 溝

SD06 (図5) 調査区北東側で検出。検出長 0.4 m、検出幅 0.5 m、深さ 0.1 mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は直線を呈すると考えられる。南東から北西側に流れる溝である。断面形及び遺構埋土は遺構そのものが浅いため不明。出土遺物はなかった。SD07 (図5) 調査区北東側で検出。検出長 0.4 m、検出幅 0.5 m、深さ 0.1 mである。遺構の北側および南側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は直線を呈すると考えられる。南東から北西側に流れる溝である。断面形及び遺構埋土は遺構そのものが浅いため不明。出土遺物はなかった。SD29 (図11) 調査区東側北寄りで検出。検出長 0.5 m、検出幅 0.9 m、深さ 0.15 mである。遺構の東側および西側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は直線を呈すると考えられる。南西から北東側に流れる溝である。断面形は舟底形である。遺構埋土は地山が粒状に入った黒色粘質土の単層で炭化物の混入を確認した。縄文土器が出土した。

#### 4 ピット

SP10 (図 11) 調査区東側北寄りで検出。検出長 0.4 m、検出幅 0.3 m、深さ 0.2m である。遺構の西側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈すると考えられる。断面形は不整形である。遺構埋土は 2 層に分かれており、上層から黒褐色粘質土、地山がブロック状に入った黒褐色粘質土である。出土遺物はなかった。

SP11 (図11) 調査区東側中央で検出。検出長 0.4 m、検出幅 0.5 m、深さ 0.1m である。平面は楕円形を呈する。断面形は舟底形である。遺構埋土は黒褐色粘質土の単層である。出土遺物はなかった。SP13 (図9) 調査区南東側で検出。検出長 0.45 m、検出幅 0.3 m、深さ 0.4m である。遺構の北側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は円形を呈すると考えられる。断面形は U 字形である。遺構埋土は地山が粒状に入った黒褐色粘質土の単層である。縄文土器が出土した。

SP24 (図 10) 調査区南西側で検出。検出長 0.3 m、検出幅 0.3 m、深さ 0.3m である。遺構の北側は調査区外であり、全容は不明であるが、平面形は円形を呈すると考えられる。断面形は U 字形である。遺構埋土は上層部を SK21 により削平されるが、下層部は地山がブロック状に入った黒色粘質土の単層である。縄文土器、焼粘土塊が出土した。主体時期は縄文時代後期と考えられる。

SP25 (図11) 調査区東側北寄りで検出。検出長 0.2 m、検出幅 0.15 m、深さ 0.15m である。遺構の西側は調査区外である為、全容は不明であるが、平面形は円形を呈すると考えられる。断面形は U 字形である。遺構埋土は締りの良い黒褐色粘質土の単層である。出土遺物はなかった。

SP30 (図9) 調査区東側南寄りで検出。検出長 0.3 m、検出幅 0.2 m、深さ 0.1m である。平面形は楕円形を呈する。断面形は台形である。遺構埋土は地山がブロック状に入ったにぶい黄褐色砂質土の単層である。縄文土器が出土した。後世による撹乱の可能性がある。 (三上)

番号	平面形態	検出長(m)	検出幅(m)	深さ(m)	断面形態	出土遺物	備考
SX01	不明	1.0	11.0	1.25	舟底形	縄文土器、有孔球状土製品、有頭 石棒、石刀、磨石、剥片、炉石?	旧谷地形
SK03	不明	1.0	7.0	1.0	U字形	縄文土器(深鉢)、 土偶(脚部)、石棒	SX01と一連する 旧谷地形か?
SK05	不明	0.5	5.0	1.0	U字形	縄文土器(深鉢) 磨製石斧、磨石	
SD06	(直線)	0.5	0.4	0.1	不明		
SD07	(直線)	0.5	0.4	0.1	不明		
SP10	(楕円形)	0.4	0.3	0.2	不整形		
SP11	楕円形	0.4	0.3	0.1	舟底形		
SP13	(円形)	0.45	0.3	0.4	U字形	縄文土器縄文土器	
SK14	(楕円形)	0.8	0.2	0.2	不整形	縄文土器縄文土器	
SK15						遺構内各所に撹乱	
SK16	不明	6.0	0.5	1.0	U字形	縄文土器、須恵器(甕) 	SK05に繋がる溝状  遺構か?
SK17	(不整形)	0.6	0.25	0.15	台形	縄文土器、土師器	
SK18	(直線)	0.3	0.4	0.2	不整形	縄文土器、焼粘土塊	
SK19	(円形)	0.5	1.1	0.45	台形	縄文土器、焼粘土塊	北東側一部撹乱
SK20	(楕円形)	0.7	0.4	0.25	U字形		
SK21	(直線)	2.3	0.3	0.05	不明		
SK22	(不整形)	0.8	0.5	0.2	U字形	縄文土器	
SK23	(不整形)	0.5	0.3	0.2	台形	縄文土器	南西側一部撹乱
SP24	(円形)	0.3	0.3	0.3	U字形	縄文土器、焼粘土塊	SK21により上層部 を 削平された遺構
SP25	(円形)	0.2	0.15	0.15	U字形		
SK26	(楕円形)	0.5	0.8	0.45	U字形	縄文土器、剥片	北東側一部撹乱
SK27	(楕円形)	0.45	0.35	0.35	(不整形)		
SK28	(円形)	0.5	0.5	0.2	台形	縄文土器	撹乱か?
SD29	(直線)	0.5	0.9	0.15	舟底形	縄文土器	
SP30	楕円形	0.3	0.2	0.1	台形	縄文土器	撹乱か?

表 1 遺構一覧表

注:平面形態および断面形態の()表記は推定。

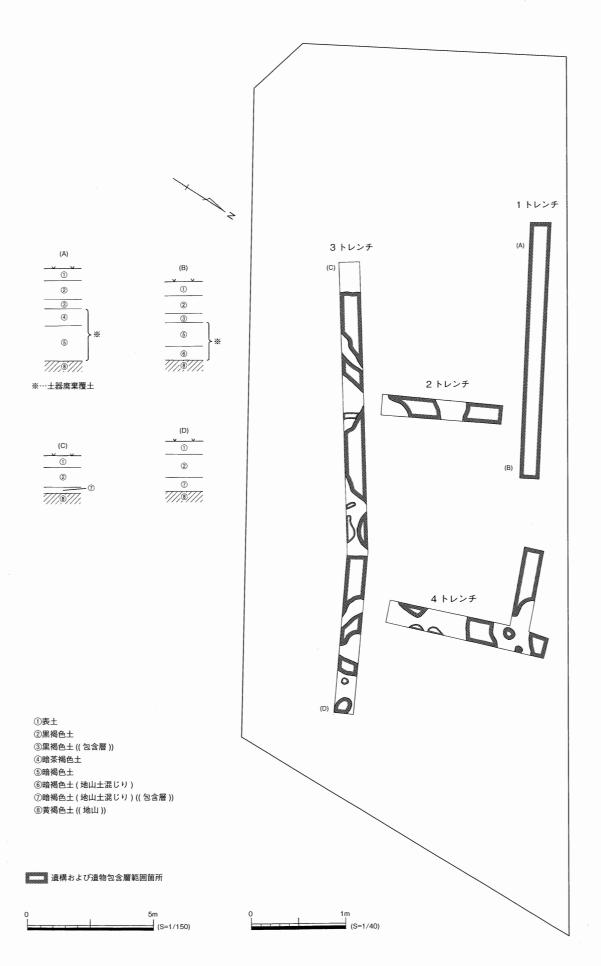
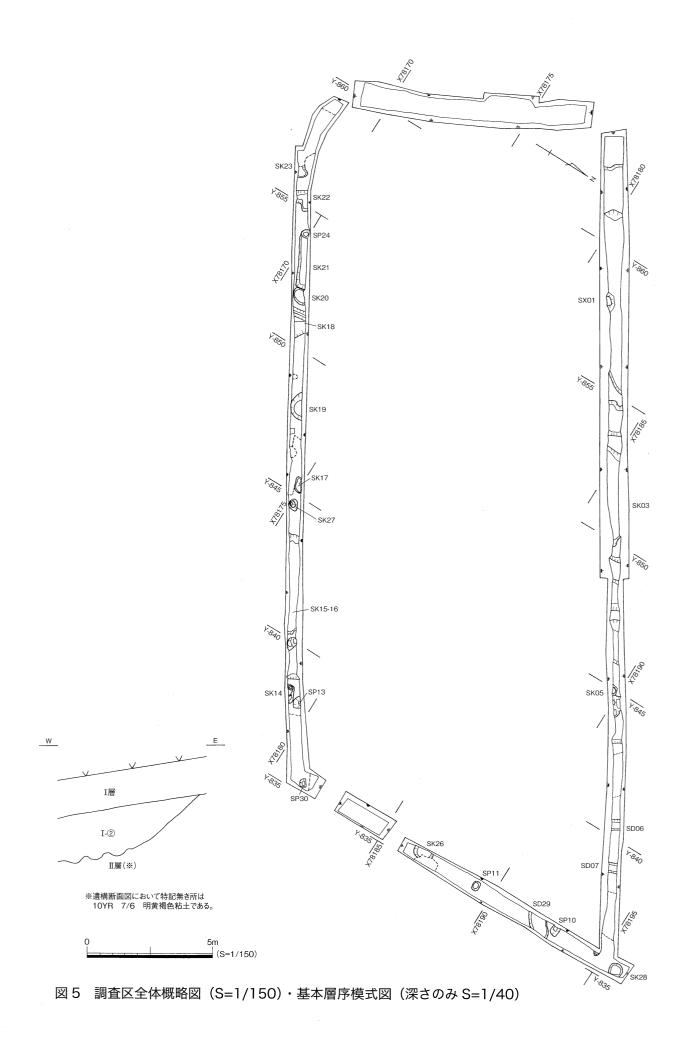


図 4 試掘トレンチ位置図 (S=1/150)・柱状図 (深さのみ S=1/40)



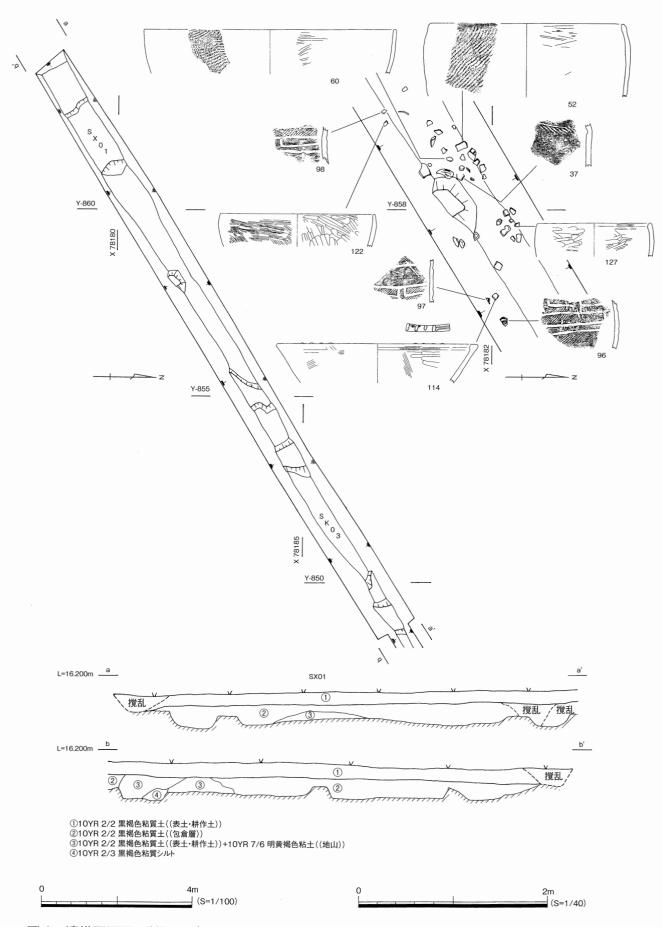


図 6 遺構平面図・断面図(S=1/100) 遺物出土状況図(S=1/40・遺物実測図は S=1/6)

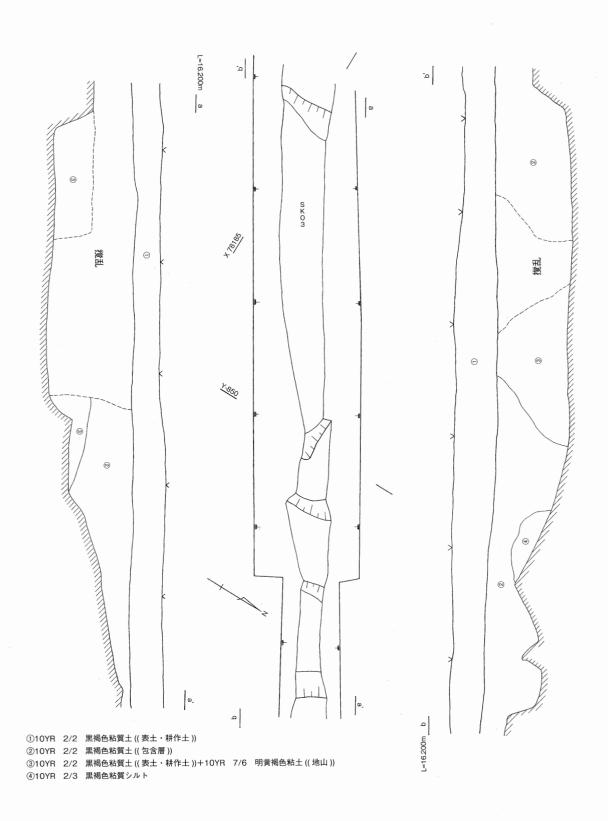
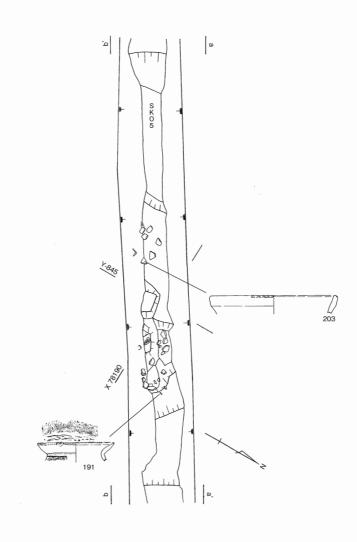




図7 遺構平面図・断面図(S=1/40)



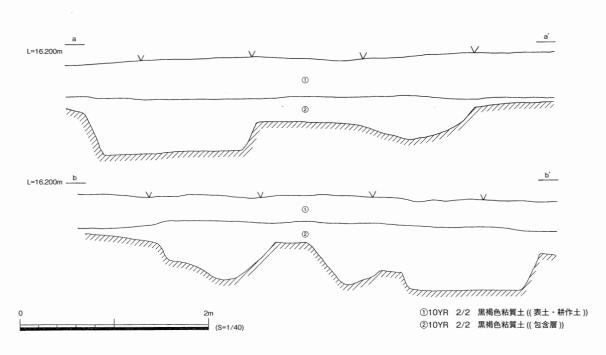
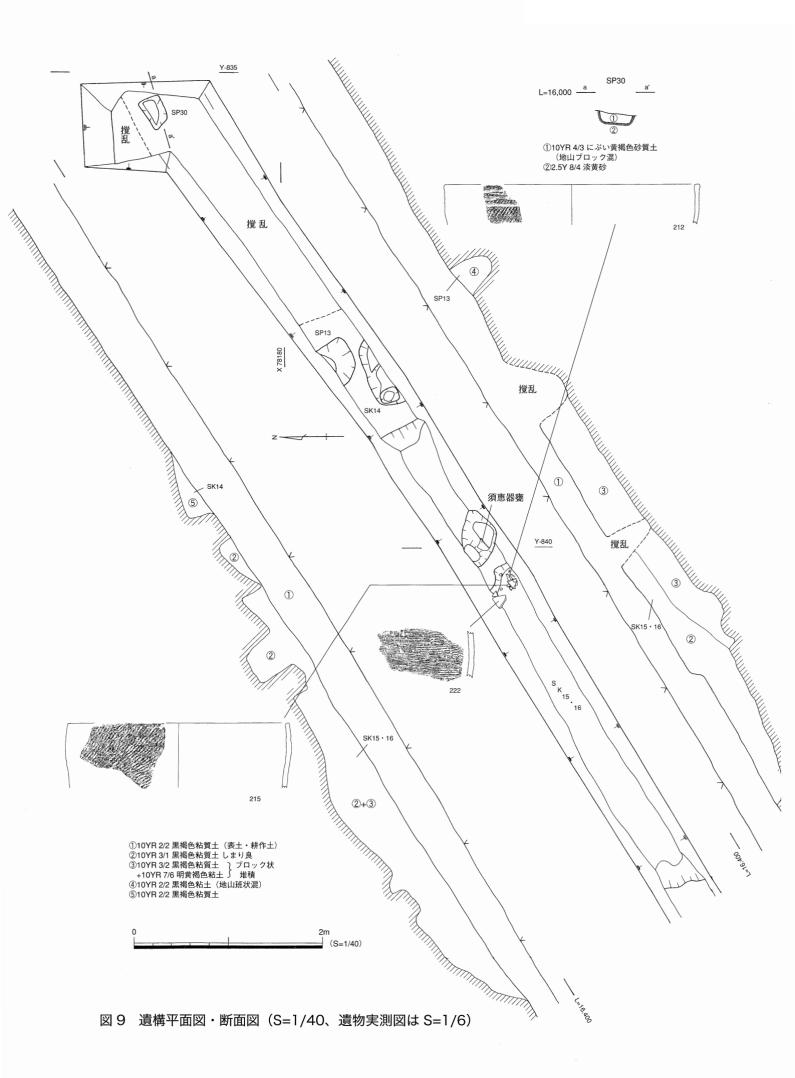
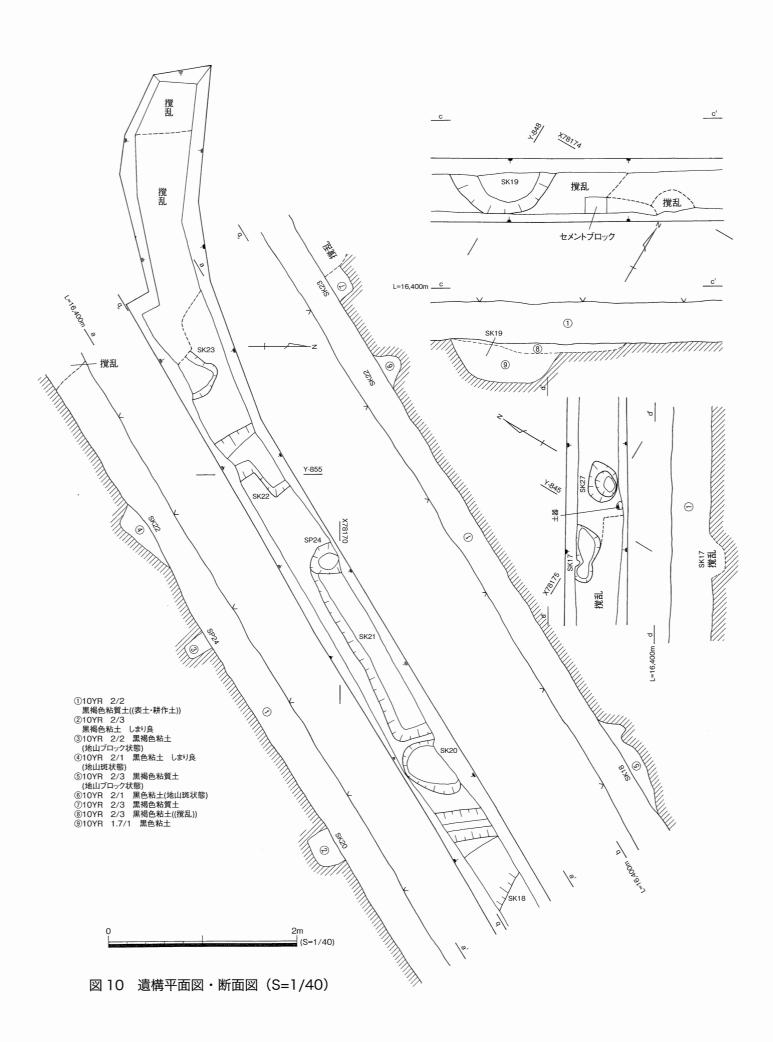
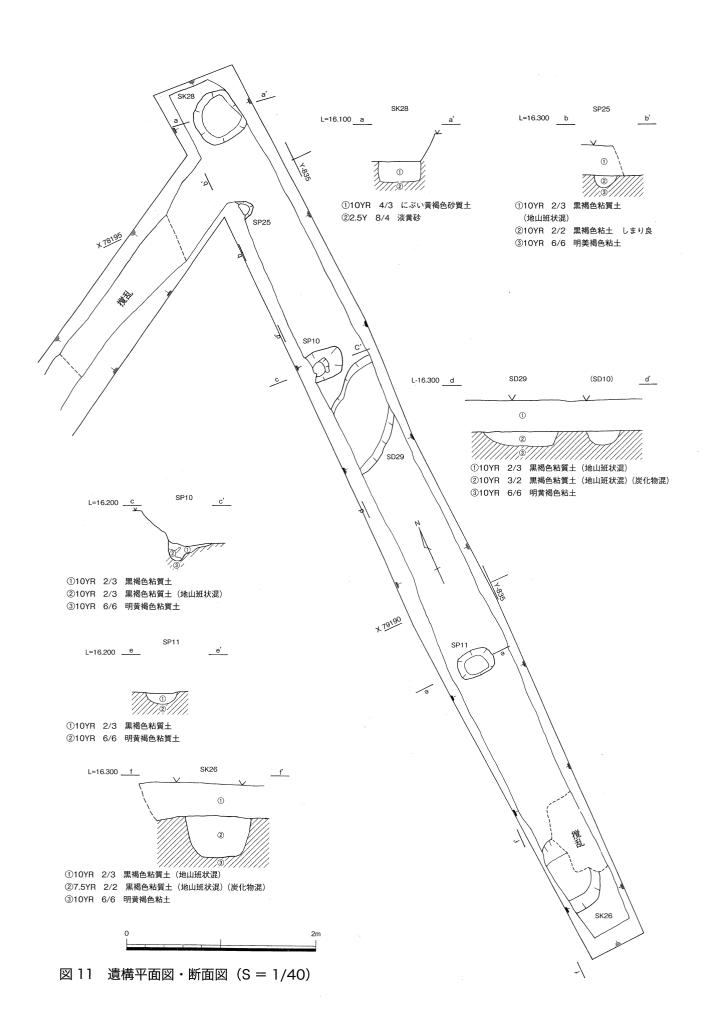


図8 遺構平面図・断面図・遺物出土状況図(S=1/40)







#### 第4節 遺物(図12~26、表2~12、写真図版6~14)

今回の調査では、縄文時代後期中葉から晩期の縄文土器・土製品・石器、須恵器がコンテナボックス (60cm×40cm×10cm) に換算して45箱出土した。大部分は調査区北西にあるSX01から出土した。 縄文土器は遺構ごとに、土製品と石器はまとめて概要を記載する。

#### 1 縄文土器

#### SX01 (図 12~17、写真図版 6~9)

1~63 は縄文時代後期の土器である。1 は単節縄文を斜めに施し、棒状工具で平行沈線を引いた 後、平行沈線をC字状に区切る短線を施す。縄文は磨り消されない。2 は文様体の下部はミガキ調整 で縄文を磨り消す。3はC字状に区切る短線を交互に施す。4は短線が直線で文様帯が方形である。5 と6は、棒状工具で楕円形に区切った部分に、縄文を充填する。7と8は口縁部分に縄文を残し、沈 線より下部分の縄文を磨り消す。9 は丸い波状口縁の口縁部に縄文を施した後、棒状工具で平行に沈 線を2条引く。その他の部分はミガキを施す。口縁は内湾し、内面は波状口縁の下部分で段を形成す る。10 は平口縁で斜めに縄文を施した後 2 条沈線を引く。縄文は残る。11 は 10 と同様の器形である が、沈線部分以外はミガキを施し縄文を磨り消す。12と13は斜めに縄文施文後、12は口縁部に2条 沈線、13は1条沈線を施し、沈線よりも口縁側は縄文を残して他は縄文を磨り消す。14は外反する 器形の口縁端部を尖らせる。縄文を施した後、口縁部外面に板状工具で刻み、その他の外面には平行 に沈線を施した後交互に縄文を磨り消す。15 は縄文施文後、棒状工具で平行沈線とその間に背反弧 線を施す。平行沈線部の下部には、縦に平行沈線を数条施文する。17 は、縄文を縦に施文後、横位 に沈線を引き、板状工具で沈線に向かって垂直方向の文様を施す。18 は縄文を斜めに施文後、同じ く垂直方向の文様を施す。14~18は、滑川市本江遺跡や金沢市米泉遺跡で酒見式とされるものに似る。 19~28 は羽状縄文系の土器である。19 は羽状縄文を施した後沈線を 2条引き、口縁部を残して縄文 を磨り消す。口縁は丸く内湾する。20 から 24 は羽状縄文を施した後、20 と 21 は沈線を引き、22 ~ 24 は沈線を引かないものである。25 は体部で、羽状縄文施文後に平行沈線をひき、交互に縄文を磨 り消す。26 は口縁端部の羽状縄文を磨り消し、体部は縄文を残す。28 は縄文施文後沈線を引く。丸 い器形で注口土器の一部の可能性がある。29~32は撚糸文系である。32は撚糸文施文後、棒状工具 で波状に沈線を引く。33 から 38 は浅鉢の口縁部である。33 は、内湾する口縁部に縄文を施文し、3 条の平行沈線を引く。34 は縄文施文後平行沈線を引き、交互に縄文を磨り消す。35 は平行沈線を施 文、36 は屈曲部分に平行沈線を引き、その直下だけ縄文を残し、他はミガキで縄文を磨り消す。37 も36と同様の文様である。39は球形の器形に方形の磨消縄文で文様帯を形成する。注口土器の一部か。 40 は波状口縁で全体をミガキ後、連続しない沈線を引く。41 は突起が付き、三叉文風の沈線文があ る。42 は外傾する口縁部で口唇部にキザミを施し、屈曲する部分に2条平行沈線を引き、沈線の下 に突起が付く。41と42は瘤付土器の系統か。43は口縁端部に楕円形の突起が付く。45は楕円形の 文様が向き合う部分に穴がある。注口土器の一部か。46 は屈曲する口縁部に3条の平行沈線を引き、 三角形に区切る。43 は胴部に平行沈線を3条引き、三角形に区切る。46と47は、井口式期である。 48~63 は粗製の深鉢である。48 は口縁の縄文をナデ消す。49·50 は口縁に指頭沈線を引く。51 は 口縁部だけ縄文を残す。52~61は外面全体縄文で、52は口縁端部を丸く収める。53~55は口縁端 部がやや尖り外傾する。56 は口縁端部が外反する器形である。57 ~ 61 は口唇部を面取りするタイプ で、57 ~ 59 は緩やかに外傾しながらまっすぐ立ちあがる器形である。60 と 61 はまっすぐ立ち上が りやや内傾する。62は外反する器形で、口縁部内面を折り返す。折り返した部分に単節縄文を施す。 その他の部分はナデ調整である。

64~134 は縄文時代晩期の土器である。64~71 は玉抱三叉文を描く。64 は玉部分が入り組む。 三叉文は沈線の延長線上である。玉抱部分の器壁を内側に押し込む。65 は三叉文部分を彫り込むよ うに描く。三叉文は短く単独である。玉抱部分を赤彩する。70 は波状口縁内側に玉抱三叉文を描く。 三叉文は短く単独である。玉部分は丸く彫り込む。外面全体に縄文を施す。71 はくの字の器形で、 対向三叉文である。玉は描かれない。玉抱を意識しながら、玉を持たない文様である。73と74は、 磨消縄文部分に棒状工具で弧線を描く。73 は縄文を施し平口縁に箆状工具でキザミを施す。74 は沈 線で区画された部分に棒状工具で曲線を描く。75 は磨消縄文を方形に区画する。76 は2条の沈線で 区画し縄文を磨り消した部分に「F」を横にしたような沈線や「T」字状の沈線で文様を描く。縄文 部分は波状に沈線を引いて縄文が波状になるように文様帯を形成する。内面はナデである。77 は沈 線で工字文風の文様を描く。口縁端部はキザミ、内面はミガキを施す。78 は細かい縄文を施した後、 棒状工具で沈線を引く。黒色の何かで彩色された可能性がある。79は沈線で区画し、単節縄文を充 填する。80 は外反する器形で、縄文を施した後、棒状工具で沈線を引く。81 ~ 86 は波状口縁の波頂 部を面取りして平らにする器形である。81 は内外面に磨消縄文を施す。縄文帯以外は、丁寧にミガ キを施す。外面の縄文部分は赤彩する。82 は外反する器形である。85 と 86 は外面に斜めに縄文を施 す。御経塚式期か。87 ~ 95 は浅鉢である。88 は口縁端部に沈線で三叉文を描く。89 と 90 は口縁端 部に沈線を引く。91 は沈線を引き小突起が付く。92 ~ 94 は内外面とも丁寧にミガキを施す。95 は 薄手のもの。調整不明で外面に粘土接合痕が残る。96~100は棒状工具で鍵手文や沈線を描く。96 は縄文施文後に鍵手文を描く。97 は沈線で文様を描いた後、縄文を充填する。文様部分以外はミガ キを施す。98は縄文を磨り消した部分に棒状工具で鍵手文を描く。99は文様を描いた後、沈線部分 以外に縄文を充填する。101・102はくの字に屈曲する口縁部で、外面屈曲部分に棒状工具による沈 線を引き、その下に列点文を1~2条施す。102 は口縁端部にキザミを施し小波状とする。103 はく の字に屈曲する器形で、平行沈線の間に一つおきに斜め方向の刺突で列点文を施す。105は沈線で精 円形に区画した中に棒状工具で刺突文を施す。106 は刺突文と入組文を組み合わせる。107 は平行沈 線の間に押引列点文を施す。108は緩いくの字の器形で、外面の屈曲部分と胴部に列点文を施す。列 点文の間は無文で、列点文から口縁端と下側の列点文より下部は縄文を施す。109は入組文、列点文 や沈線と縄文を組み合わせる。110 は波状口縁で、外面全体は縄文、内面はミガキで緩く段がある。 111~115 は浅鉢である。111 は薄手で、口縁端部に口縁と平行に沈線を引き、突起が付く。112 は 厚手で、文様はなく全体にミガキを施す。113と114は口縁部に向かって肥厚する器形である。113 は口縁端部に縄文と突起を貼り付け、沈線で三叉文風の文様を施す。114 は縄文と突起を 4 単位貼り 付け、棒状工具で口縁と平行に沈線を引く。内面は丁寧なミガキである。115 は小型で口縁端部に沈 線を施す。116 は口縁端部外面にキザミを施す。外面全面に単節縄文を施す。117 と 118 は口縁端部 に棒状工具でキザミを施すほかは調整不明である。119はくの字に屈曲する器形で、口縁端部に指頭 でくぼみを施して小波状にする。内外面とも調整不明である。120 は緩く屈曲する器形で、口縁端部 に棒状工具でキザミを施し、小波状風にする。内外面とも調整不明である。121 ~ 126 は粗製の深鉢 である。121 は口縁に向かってまっすぐ立ち上がりながら緩く内湾する器形で、口縁端部に向かって 丸く収める。外面全体を横位の二枚貝条痕で調整する。内面は調整不明である。122 は口縁に向かっ て緩く内湾しながら立ち上がる器形で、口縁端部を面取りする。外面全体には横位の二枚貝条痕で調 整する。内面はミガキと思われるが、単位等は不明である。123は口縁に向かって緩く外反する器形で、 口縁端部は丸く収める。外面は口縁端部の 1cm 程度下から横位の二枚貝条痕で調整する。内面はミ ガキ調整と思われるが、単位等は不明である。124 は口縁に向かって緩く内湾する器形で、外面は口 縁端部から横位の二枚貝条痕で調整する。125 は口縁に向かってまっすぐに立ち上がる器形で、口縁 端部は面取りする。外面全体は横位の二枚貝条痕で調整する。内面は調整不明である。126 は緩く内湾する器形で口縁端部は丸く収める。外面は全体をやや急な単位不明の斜め条痕で調整する。煤が付着する。内面は調整不明である。127 と 128 は緩く内湾する器形で、どちらも内外面ともミガキ調整する。128 は口縁部内面に指頭圧痕による沈線を引く。129 は口縁端部 1.5cm 下の外面を摘み上げて突帯を形成する。突帯の頂部には、工具や単位不明のキザミを連続して施す。内面の調整は不明である。130 は口縁端部が外反する境形の器形で、内外面とも調整不明である。131 は壺の口縁部の可能性のあるもので、内外面とも単位不明のミガキ調整である。132 は外反する口縁部で、口縁端部外面に折り返した痕跡が残る。内外面ともミガキ調整である。133 は輪積み痕を残す土器の一部で、棒状工具による穴が2か所ある。内外面とも調整不明である。134 は底部である。丸底で内外面とも調整不明である。胎土からみて弥生土器の可能性もある。

#### SK03 (図 18·19、図版 10)

135 は外面にH状に沈線を施し、内面に指頭沈線を横位に引く。外面赤彩する。八日市新保式期。 136 は斜め、137 は縦に縄文を施す。138 は棒状工具で二重に楕円形文を引く。139 は外面に細かい縄 文を施し、内面はミガキを施す浅鉢と考えられる。140 は外反する器形で、外面は棒状工具による沈 線で縄文帯とミガキ部分を区画する。内面もミガキである。141 は体部で、同様の文様である。142 は 外傾する浅鉢の口縁部で口唇部に沈線で三叉文を施す。外面は横位に縄文を施し、沈線を引く。内面 はミガキである。143 は外面縄文、口唇部に箆状工具によるキザミ、内面は指頭沈線を施す。144 は 外面縄文で、口縁端部を面取りし外側に押し開く。146 は小波状口縁で波頂部をわずかに刺突し、外 面に縄文を施した後、棒状工具で三叉文や円形の沈線文を描く。内面はミガキである。器形や施文方 法から御経塚式期である。147 は棒状工具による沈線と列点文を組み合わせる。148 は口縁部外面に 縄文を施し、外面に沈線文、口縁端部に箆状工具によるキザミを施す。149 は外反する器形で外面は 縄文に横位に沈線、内面はミガキである。150はまっすぐ外に開く器形で、外面は縄文施文後、棒状 工具による沈線を横位に3条引く。151は蓋で入組文や列点文を組み合わせる。内面はミガキである。 152 は精製の鉢で、「し」状の沈線文や押引列点文を施す。153 は平行沈線と押引列点文、154 は縄文 に棒状工具で沈線文を施す。どちらも外面赤彩する。155 は棒状工具による列点文を2条施す。156 は四角い断面形の棒状工具で横位に列点文を施す。列点文より口縁側は斜めに縄文、体部側はミガキ 調整と考えられる。列点文部分は赤色顔料のようなものが残り、赤彩された可能性が高い。157 は口 唇部にメガネ状の楕円文を施す。158 は外傾する器形で外面は縄文と列点文、内面はミガキ、口唇部 は板状工具によるキザミで小波状を形成する。160 ~ 169 は粗製の深鉢で、161・162 は指頭による小 波状を形成する。162 は横位に二枚貝条痕を施す。160 は外面から内面に向かって穴を開ける。163 ~ 165 は、口縁端部に工具によるキザミを施す。横位に条痕を施し、164 と 165 はナデ消しする。160 と 166~169 は平口縁のもの。横位に条痕を施す。169 は口縁部内面に棒状工具による沈線を口縁と平 行にひく。 $170\sim173$  は弥生土器の可能性のあるもの。 $170\sim172$  はくの字に開く器形である。173 は 胴部で櫛状工具による波状文を2条描く。176 ~ 179 は縄文土器底部。176 は中央に二本超え二本潜 り一本送りの網代痕と台形の棒状工具による圧痕が残る。179 も全面に単位不明の網代圧痕が残る。

#### SK05(図 20、写真図版 11)

180 は羽状縄文を施す。182 は棒状工具による平行沈線の途中に突起が付く。183 と 184 は口縁部に平行沈線を引く。183 は縄文を残す。189 は口縁部外面に玉抱三叉文を描く。190 は口縁部内面に円形の突起が付く。外面全体は斜めに縄文、内面全体はミガキ。191 は精製の鉢か注口土器口縁部である。192 は球形の胴部で沈線の間に列点文を施す。193 は緩やかな波状口縁にキザミを施し、外面は細かい縄文を施す。194 は口縁部キザミ、外面に鍵手文を描く。内面はミガキ。195 ~ 198 は列点文を 2 条

施す精製土器。199 は蓋で、楕円形のツマミ部分に小突起を4ヶ所施す。動物意匠の可能性がある。全体に赤彩する。 $201 \sim 205$  は粗製の深鉢で、横位に条痕を施すもの、指頭で小波状にするものなどがある。206 は底部で簾状圧痕が残る。

#### SK15·16 (図 21、写真図版 11·12)

207 は口縁部外面に縄文、内面に箆状工具で施文する。210 は羽状縄文を施す。212 は粗い縄文施文後指頭沈線を2条引く。213~215 は粗製の深鉢。器形はまっすぐ立ち上がりながらやや内湾する。外面は斜めに縄文を施す。216 は浅鉢か。口縁端部をわずかに折り曲げる。外面は磨消縄文で、赤彩する。218 は細かい波状口縁で、刺突文や箆状工具で施文する。219~221 はくの字の器形である。219 は内外面とも調整不明、220 は口縁部に指頭によるキザミを施す。221 は条痕調整後ナデ消し、外面から内面に向かって穴を開ける。224 は注口土器の注口部分である。

#### 底部(図 22、写真図版 12)

全て SX01 およびその包含層から出土した。 $225 \sim 231$  は網代圧痕を残す。 $225 \sim 229$  は 2 本超え 2 本潜り 1 本送りの単位のもの。体部は縦縄文を施すものとヘラケズリのものがある。230 は 1 本超え 1 本潜り 1 本送りの単位のもの。231 は 1 本超え 1 本潜り 1 本送りの単位の網代圧痕をナデ消す。232 は簾状圧痕、233 と 234 は圧痕は見られない。

#### その他遺構出土遺物 (図 23、写真図版 12)

235 は SK14 から出土。入組文や列点文を施す。中屋式期。236 ~ 239 は SK18 から出土。236 は外面に接合痕を残し、内面に縄文を施す。238 は尖った波状口縁に沿って縄文を施し、沈線で区画する。239 は口縁に指頭圧痕を残し、内面に簾状圧痕を施す。後期中葉~後葉。240 は SK19 から出土。241 は SP24 から出土。242 ~ 244 は SK26 から出土。中屋式期か。245 ~ 249 は SK28 から出土。246 は口縁部外面に羽状縄文を施す。249 は胴部で羽状縄文を施した後、棒状工具による平行沈線で区画する。後期中葉~後葉。

#### 包含層出土遺物(図 23・24、写真図版 12・13)

250~259は羽状縄文の浅鉢である。250は羽状縄文を沈線で区画し、磨り消した部分はミガキを施 し文様帯を構成する。円形の突起がある。焼成は良好で胎土に雲母が混入する。加曽利 B2 式期。254 は円形の器形で沈線により方形の文様帯を構成する。250~257は沈線で区画するもの。261は撚糸 文を施す。263 は屈曲する部分に棒状工具による沈線を引き、棒状工具による刺突が 5 か所ある。264 は屈曲する部分に縄文と沈線を施す。266 は沈線で三角形に縄文と磨消部を区画する。267 ~ 268 は 口縁部外面に指頭沈線を引くもの。縄文後に引くものと、ナデ後に引くものがある。270 は外反する 口縁部内面に棒状工具で沈線を引く。275 は棒状工具で4条沈線を引く。井口式期のものか。276 は 三角形に尖る波状口縁で、外面に箆状工具による沈線と突起が付く。八日市新保式期。278は外反す る器形で口縁部キザミ、外面縄文帯に棒状工具で沈線文を描く。279と280は沈線で玉抱三叉文を描 く。281 は口唇部に沈線で三叉文を描く。縄文時代晩期前葉か。284 は内外面ともミガキの浅鉢であ る。286 は精製の鉢か注口土器の口縁部である。外面は口縁部キザミと小突起、細かい縄文を施し、 頸部から下は羊歯状文を描く。 内面はミガキ。 287 ~ 289 は入組文を描く。 290 と 291 は列点文を施す。 292は鍵手文を描く。294は外面細かい縄文で赤彩する。内面はミガキ。295は口唇部に細かいキザ ミと小突起が付き、外面は縄文を施す。296 は浅鉢の口縁部で、口縁端部に縄文を施した後、沈線を 引き小突起を貼り付ける。297 は草本類の条痕を施す。298 は刻目突帯文系の甕か。口縁部に突帯を 貼り付け、板状工具で刻み目を施す。突帯の下部は条痕調整後ナデ消す。弥生時代前期か。

その他、掲載しなかったが古代須恵器甕の胴部や古代土師器が数点出土している。出土状況からみて、流れ込みと考えられ、近隣に須恵器窯跡など古代の遺構の存在する可能性がある。

#### 2 土製品 (図 24、写真図版 13)

299~304 は土製品である。299 は土版の一部である。全容は小判のような楕円形と考えられる。両面に櫛状工具による沈線を3条単位で施す。その他の調整は不明である。301 は有孔球状土製品の一部である。全容は球状で棒状工具による穴の痕跡がある。穴の直径は約10ミリである。表面は平滑で調整は不明である。富山市内では豊田大塚・中吉原遺跡など、縄文時代晩期の遺跡数か所で出土している。300 は不明土製品である。全体の形は不明である。棒状工具による穴が少なくとも3か所ある。一部の辺は波状になる。調整は不明である。299~301 はSX01 から出土した。302・303 は土偶である。303 は右手の肩から手先部分で、腕を下げた状態を表現する。断面形はほぼ円形である。縄文施文後、棒状工具による沈線で円形や工字文風の文様を描く。文様や土器の時期から中屋式期である。包含層から出土した。302 は足のくるぶしから先の部分を表現する。つま先部分にヘラ状工具で4条刻みを施し、足指を表現する。SK03 から出土した。304 はイノシシ形獣面突起である。イノシシの顔を左斜め前から見た状況を模す。SK05 上の包含層から出土した。左面は粘土を円形に貼り付けた突起と棒状工具による沈線で装飾する。ほぼ中央に棒状工具で穴を開けて目を表現する。向かって左端は円形突起に針状工具で2点刺突して鼻を表現する。右面は全面に単節縄文を斜めに施す。獣面の下部分に接合痕があるため、土器の一部に接合していたと考えられる。 (細土)

#### 3 石器 (図 25·26、写真図版 14)

打製石斧・砥石・磨製石斧・凹石・敲石・石棒・石刀等や未製品がある。この他、図化しなかったが被熱のある礫、器種不明の製品の破片、黒曜石・頁岩・チャート・鉄石英などの剥片が出土した。石製品の出土量は、遺構出土に限ればSX01が最も多く、器種を判別できるもので13点、器種を判別できない破片を含めると22点出土した。その他の遺構は数点の出土量である。

305 は、石鏃である。尖基鏃であり、石材は玉随の可能性がある。306 ~ 308、313・314 は、打製石斧 である。306 は撥形、307 は分銅形を呈する。5 点とも一面に原礫面を残す。306 ~ 308、313 は大型の薄 片を整形する。また、原礫面に研磨痕が見られることから、磨石または砥石を転用したと考えられる。 314 は長楕円形の礫を敲打および剥離により整形する。石材は、306 ~ 308、313 が安山岩であり、314 は砂岩の可能性がある。309は、擦切石器である。全面が研磨され、長軸両側縁を機能部とする。一 面に被熱痕が見られる。細長い台形状を呈する形態や剥離による整形の痕跡が見られることから、打 製石斧の破損品を転用した可能性がある。石材は砂岩である。310 ~312 は磨製石斧である。3 点とも 定角式磨製石斧である。石材は310·311が砂岩、312が蛇紋岩である。近年、従来蛇紋岩とされてきた 石材の中に透閃石岩が含まれることが指摘されているが、312 はネオジウム磁石に強く反応し、帯磁率 が14.0~17.0×10-3SI(田中地質製WSL-Cにより計測)という高い値を示したことから、中村のいう蛇紋 岩(中村 2014)と同定した。315 は、石棒である。 珪化木を横方向に研磨することにより形状を作出する。 316は、石刀である。 縦方向の研磨により形を作出する。 石材は緑泥片岩製である。 317は、石皿である。 両面に使用痕を持つ。石材は砂岩である。318は、不明石器未製品である。細長い棒状で、敲打によ り形を作出した後、一面を研磨により平滑化している。石棒類や横長の石冠の未製品の可能性がある。 石材は安山岩である。319 ~ 322 は、凹石および敲石である。319・320 は凹石、321 は敲石、322 は凹 石と敲石が複合したものである。また、321は敲面が痘痕状を呈し、石器製作用のハンマーとして用 いられた可能性がある。石材は、319が泥岩、それ以外は砂岩である。323は、砥石である。分銅形 打製石斧を転用したものであり、すべての面に研磨痕が見られる。形が扁平で、剥離による整形の痕 跡があまり見られない面が存在することから、元となった分銅形打製石斧は、一面に原礫面を残した 大型の薄片を整形することにより、形を作出したと考えられる。石材は安山岩である。 (納屋内)

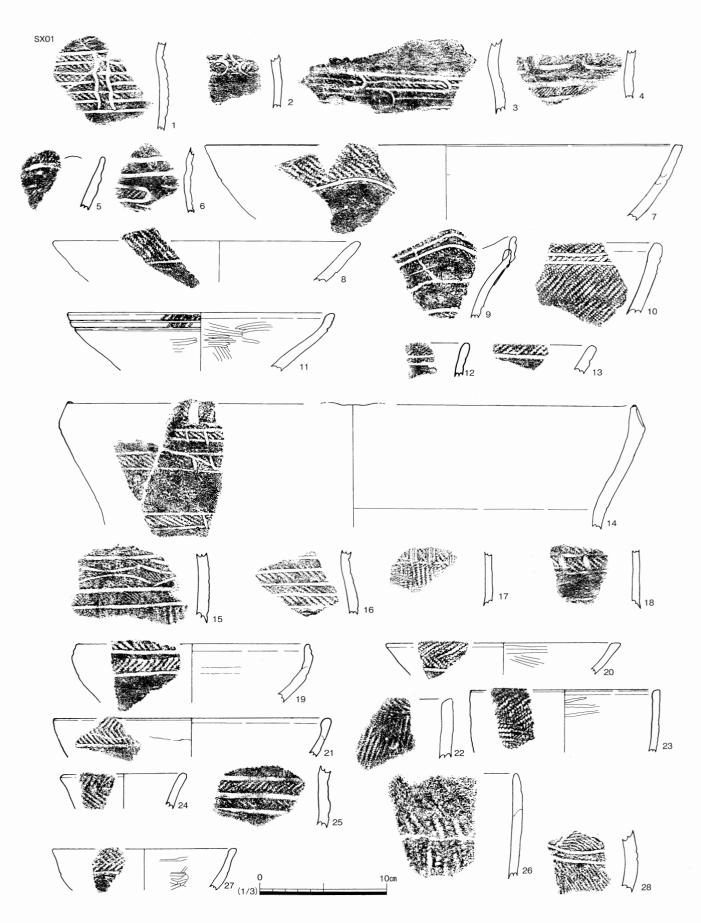
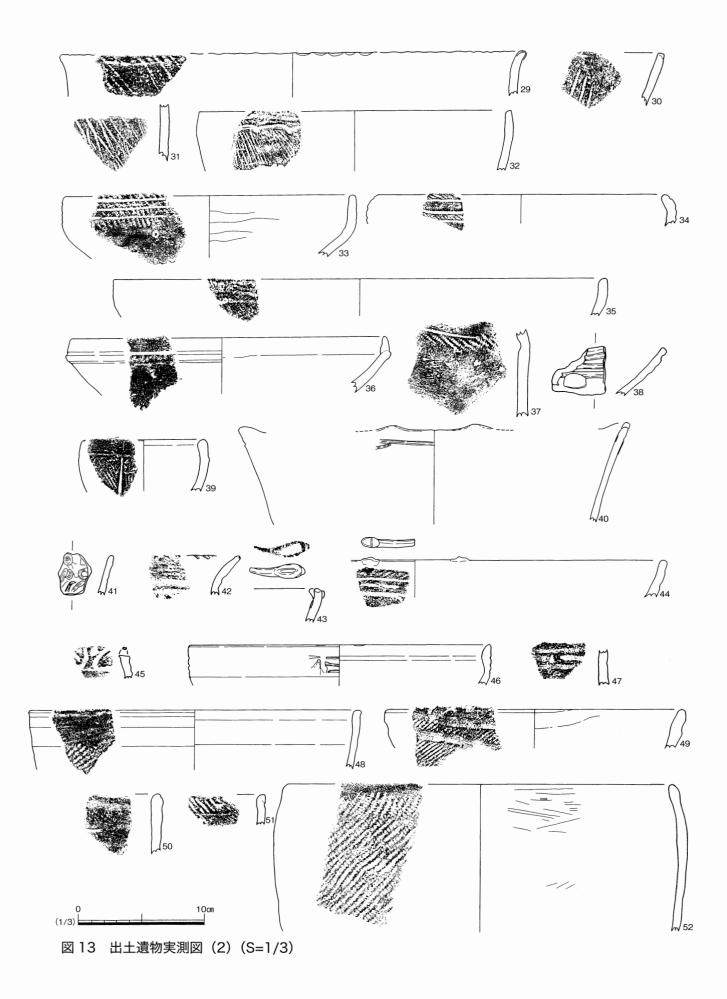


図 12 出土遺物実測図 (1) (S=1/3)



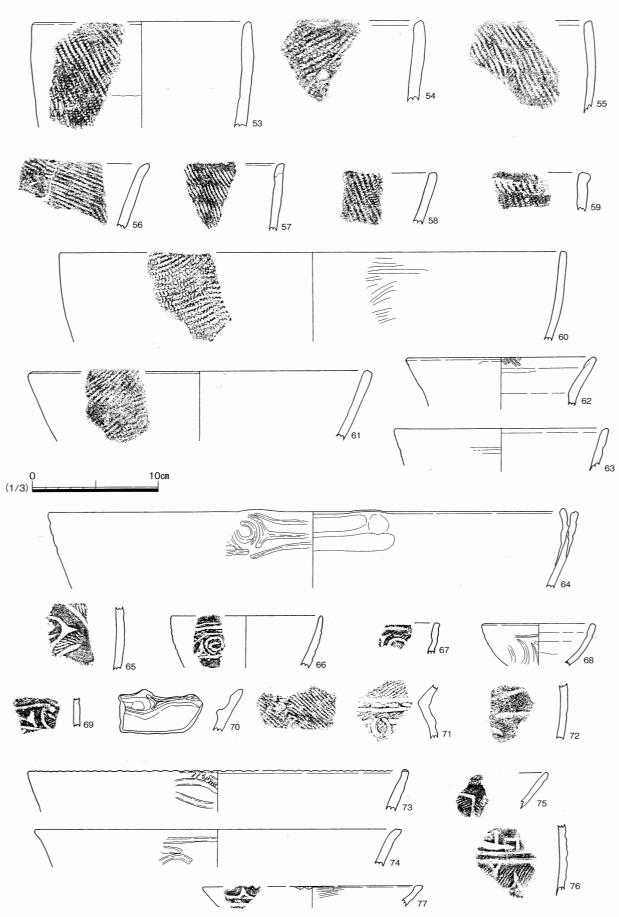
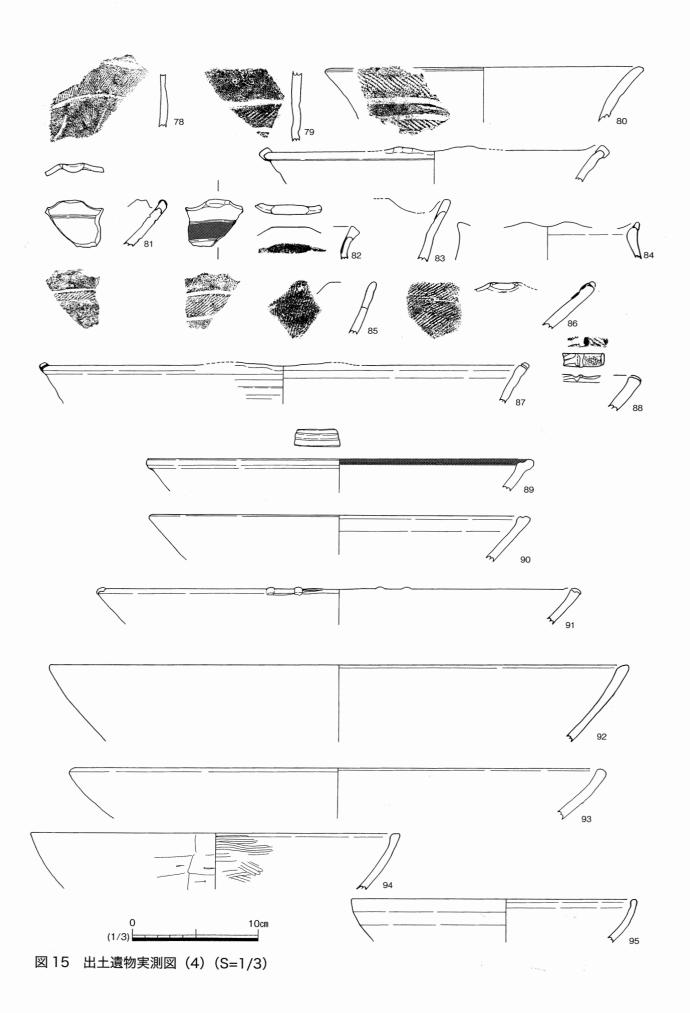


図 14 出土遺物実測図 (3) (S=1/3)



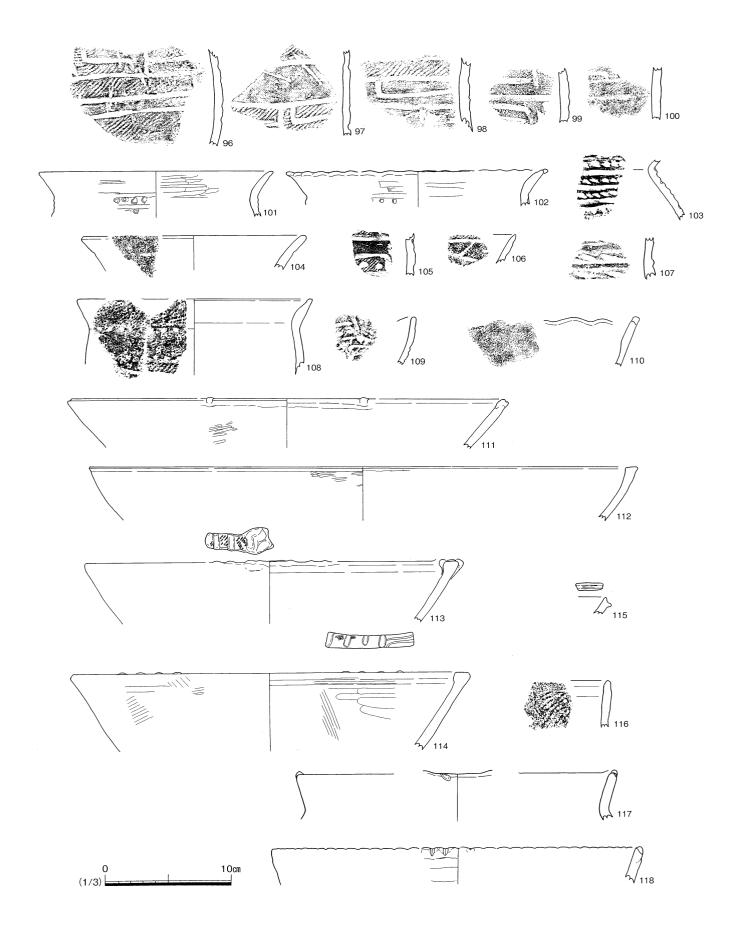


図 16 出土遺物実測図(5)(S=1/3)

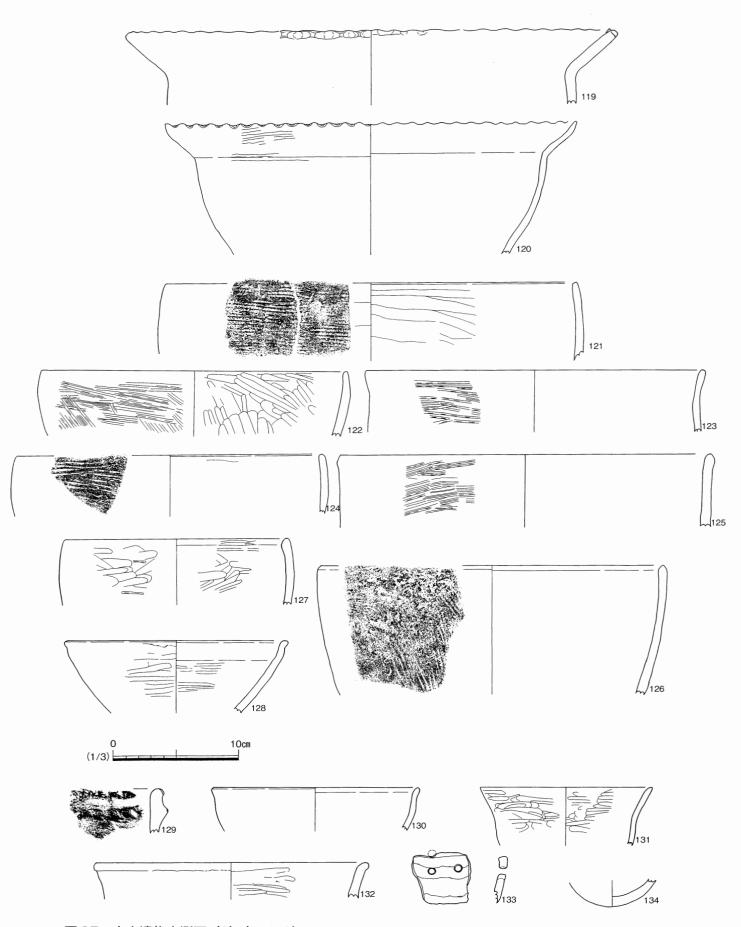


図 17 出土遺物実測図 (6) (S=1/3)

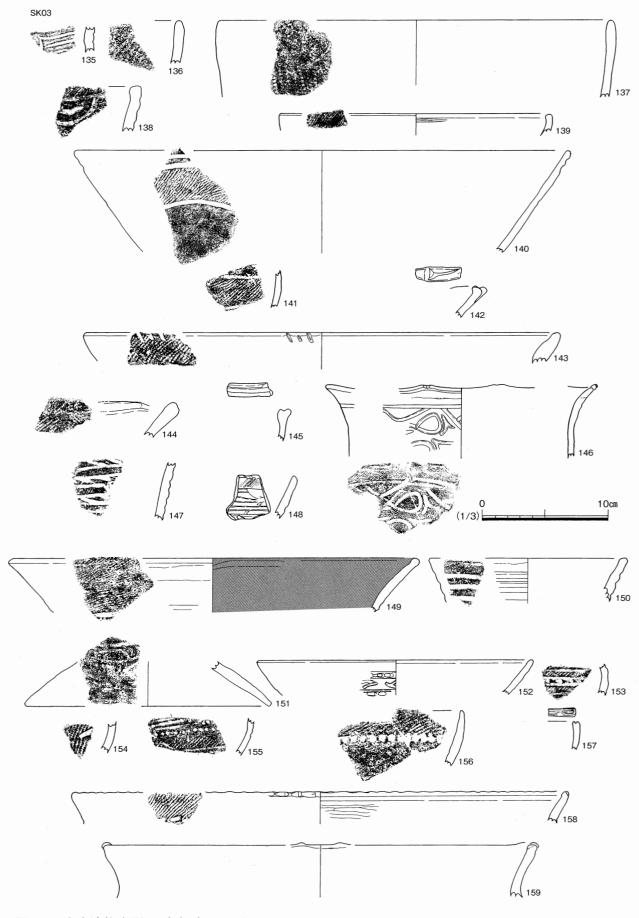


図 18 出土遺物実測図 (7) (S=1/3)

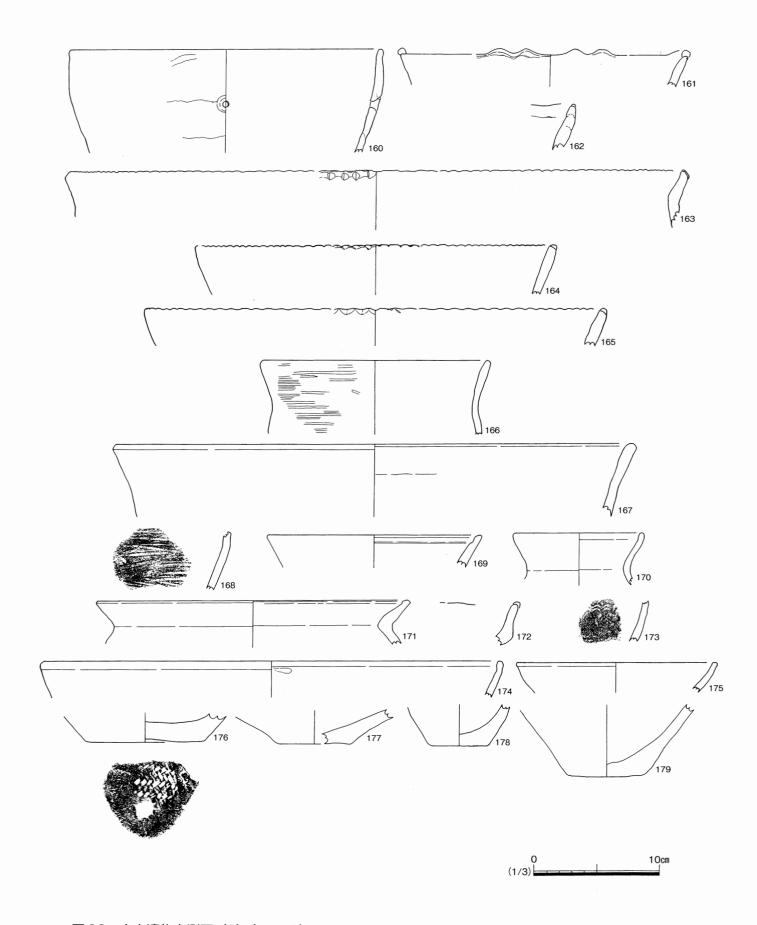
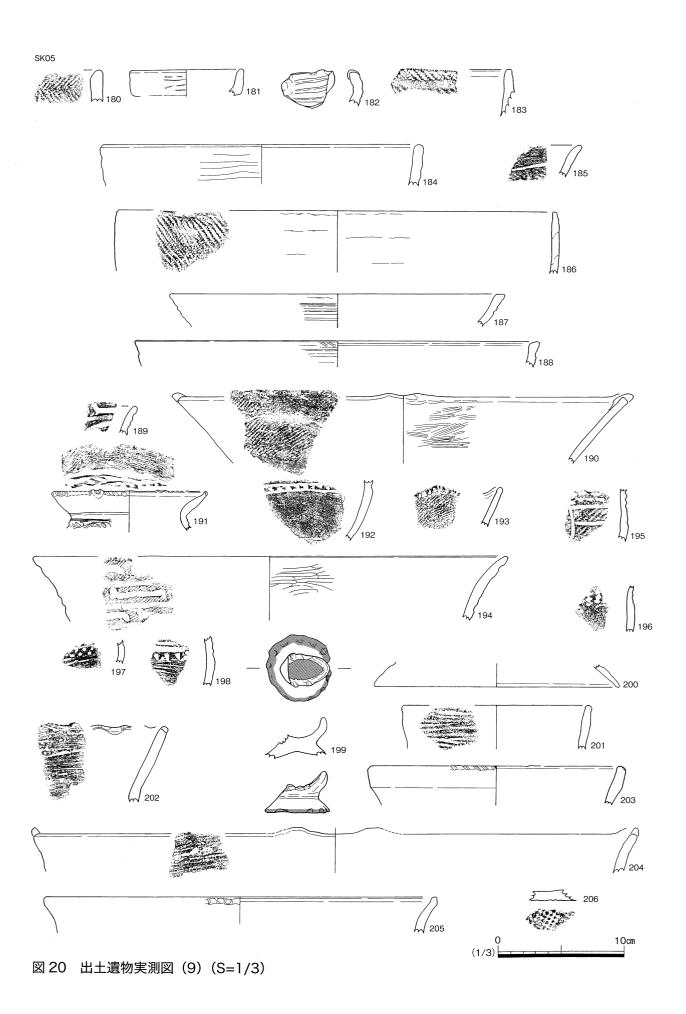
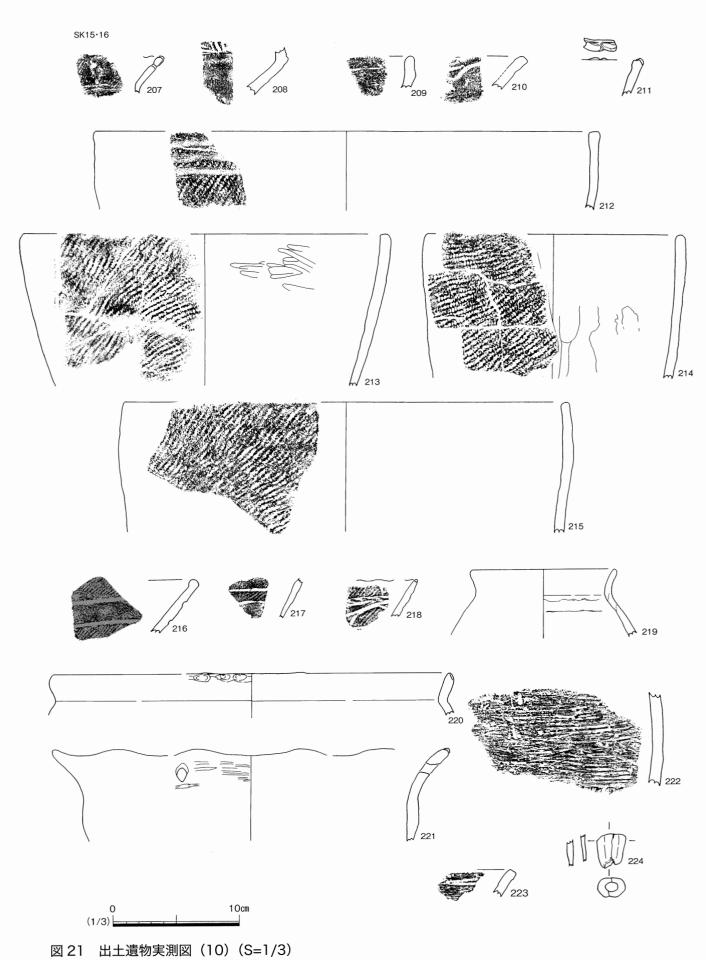


図 19 出土遺物実測図 (8) (S=1/3)





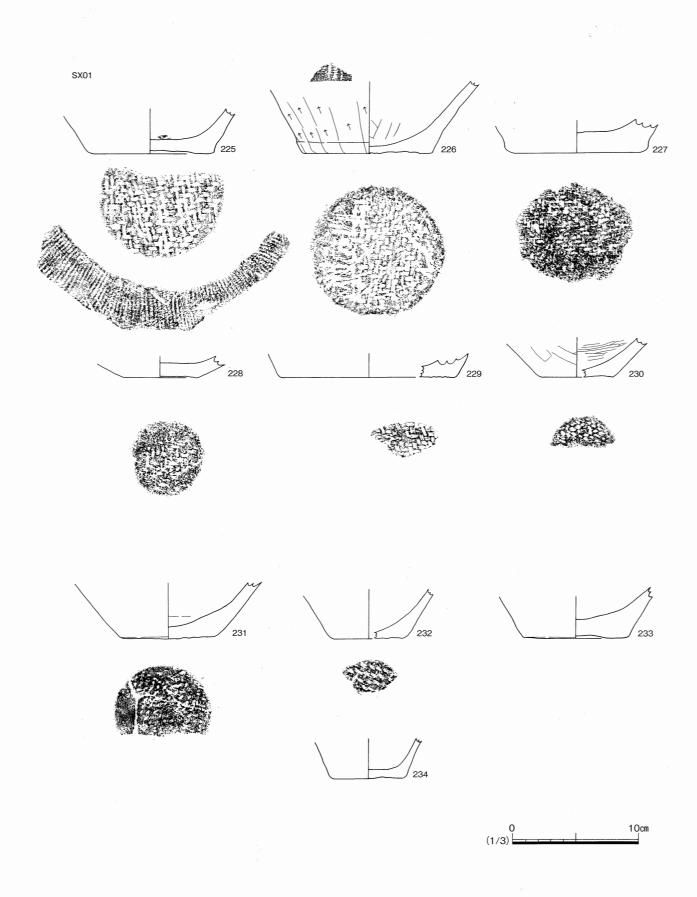


図 22 出土遺物実測図 (11) (S=1/3)

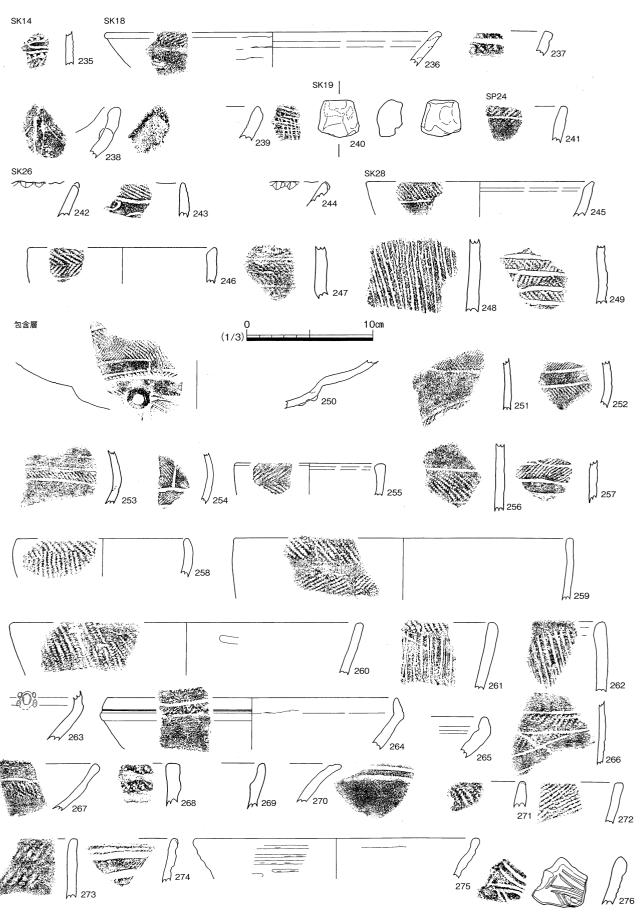


図 23 出土遺物実測図 (12) (S=1/3)

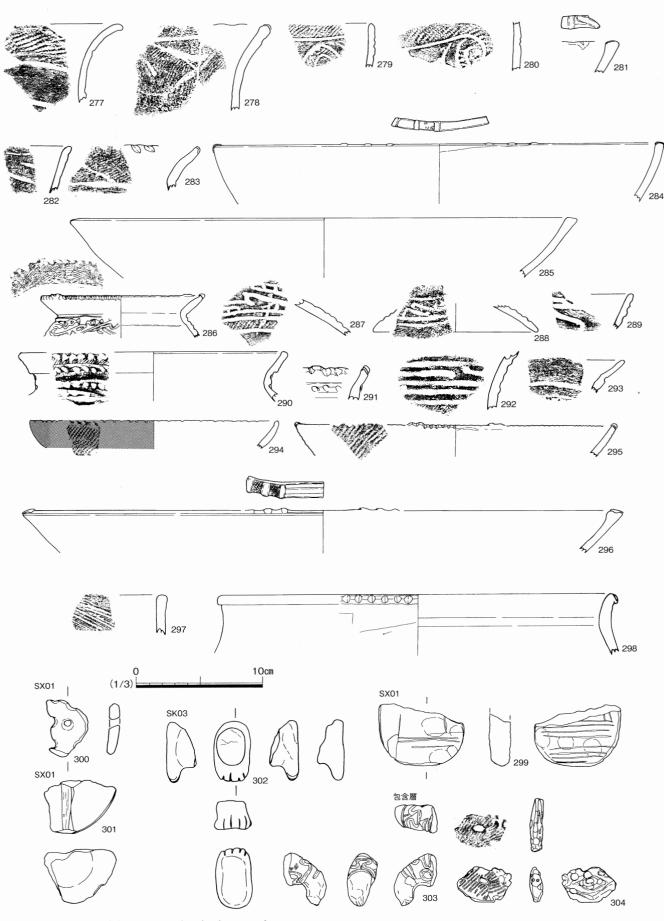


図 24 出土遺物実測図 (13) (S=1/3)

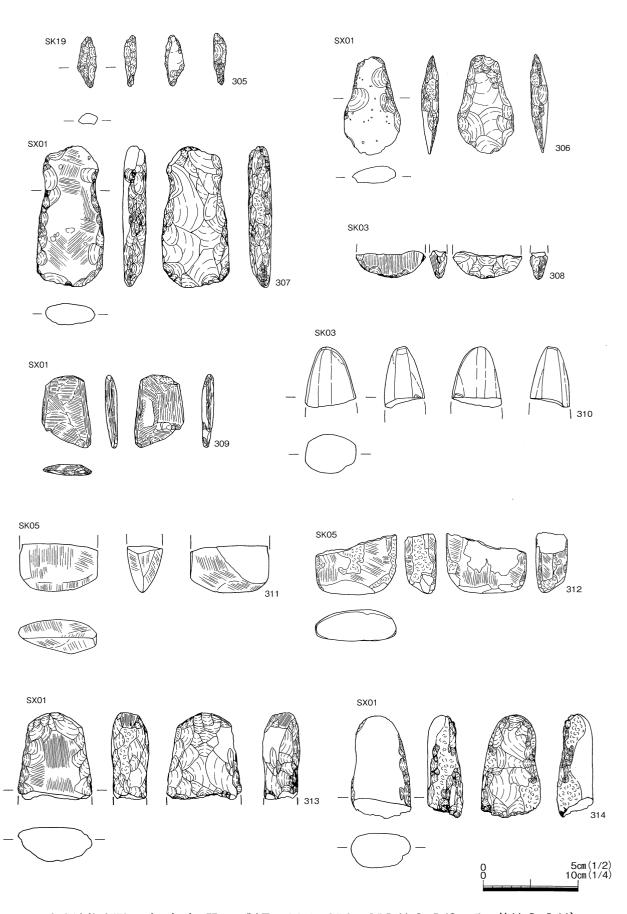


図 25 出土遺物実測図 (14) (石器・石製品 305・310・311 は S=1/2、その他は S=1/4)

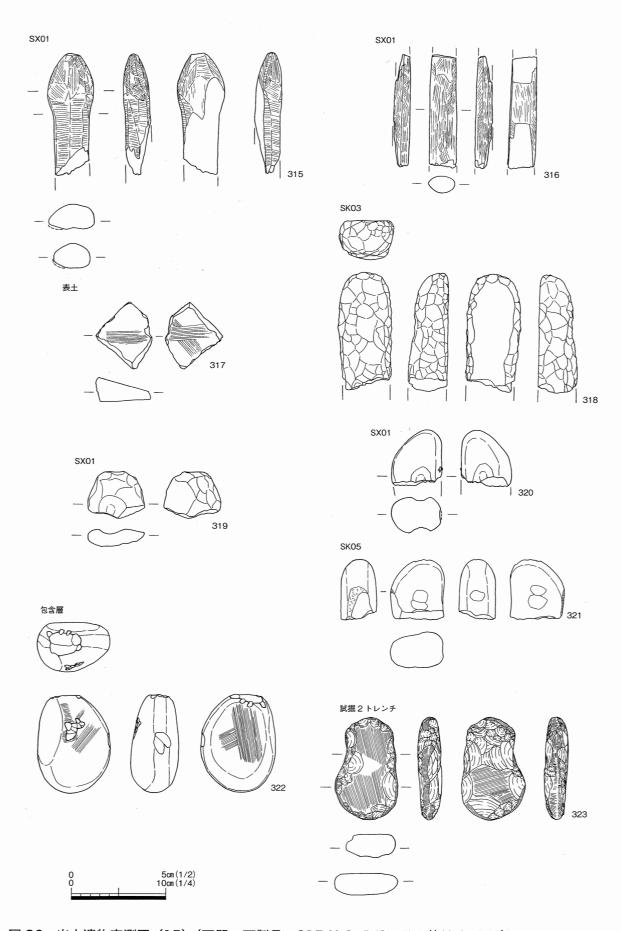


図 26 出土遺物実測図 (15) (石器・石製品 315 は S=1/2、その他は S=1/4)

		<b>#</b> :	<u> </u>	態		胎土		色	調	成	形・調整	
番号	出土地点	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	質	焼成	内 面	外 面	内 面	外 面	備考
1	SX01 (A-2)	縄文土器	-	7.65	-	粗	良	10 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R7/3 にぶい黄橙	調整不明	縄文+沈線文を区画	後期
2	SX01 (A-2)	縄文土器	-	4.2	_	密	良	10 Y R6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	ミガキ?	縄文+沈線文 調整不明(ミガキ?)	後期
3	SX01 (A-2)	縄文土器	-	6.3	_	やや 粗	良	10YR8/4 浅黄橙	10 Y R8/4 浅黄橙 7.5YR7/6 橙	調整不明	ミガキ?3条沈線を区切る 逆しの字状沈線	後期
4	SX01 (A-4)	縄文土器	-	4.0	_	密	良	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	調整不明	磨消縄文+棒状工具沈線	後期
5	SX01 (A-2)	縄文土器	_	4.6	-	密	良	10 Y R7/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい橙	調整不明	縄文+沈線文	後期
6	SX01 (A-2)	縄文土器	-	5.6	-	密	良	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙	調整不明(ナデ?) 指頭沈線	棒状工具沈線+磨消縄文	後期
7	SX01 (A-1)	縄文土器 浅鉢	38.3	6.3	-	密	良	10 Y R6/3 にぶい黄橙	7.5 Y R6/4 にぶい橙 7.5 YR5/1 褐灰	口縁部 面取り 調整不明	縄文(斜位) 沈線 ミガキ	後期
8	SX01	縄文土器 浅鉢	22.2	3.4	-	密	良	10YR5/2 灰黄褐	7.5 Y R6/4 にぶい橙	ミガキ	縄文 棒状工具沈線 ミガキ?	後期
9	SX01 (A-2)	縄文土器	1	6.5	_	密	良	7.5YR7/4 にぶい橙 10YR4/2 灰黄褐	5YR5/4 にぶい赤褐	調整不明	沈線2条 縄文後磨消+ミガキ 沈線 縄文	後期
10	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	59.9	5.9	-	密	良	10 Y R6/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	指頭圧痕 ミガキ	縄文(斜位)+棒状工具沈線2 条	後期
11	SX01 (A-1)	縄文土器 浅鉢	20.1	4.8	-	密	良	10 Y R6/3 にぶい黄橙	10 Y R 6/3 にぶい黄橙	ミガキ	縄文(斜位)+棒状工具沈線2 条ミガキ?	後期
12	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	20.4	2.7	-	密	良	10 Y R6/3 にぶい黄橙	10 Y R 7/3 にぶい黄橙	調整不明	縄文+棒状工具沈線2条 調整不明	後期
13	SX01 (A-1)	縄文土器 鉢	19.6	2.3	_	密	良	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	口縁部 ミガキナデ	単節斜縄文 沈線文 ナデ	後期
14	SX01	縄文土器 深鉢	45.3	10.0	_	粗	やや 不良	5YR6/6 橙	5 Y R6/6 橙	調整不明	板状工具刺突 縄文→棒状工具沈線→磨消	後期
15	SX01 (A-2)	縄文土器	-	5.45	_	密	良	10YR6/2 灰黄褐	10 Y R 7/4 にぶい黄橙	ミガキ	縄文+棒状工具沈線	後期
16	SX01 (A-1)	縄文土器	-	5.25	_	密	良	10 Y R7/3 にぶい黄橙	10 Y R6/3 にぶい黄橙	調整不明	縄文+棒状工具沈線	後期
17	SX01	縄文土器	_	4.25		密	良	7.5 Y R4/2 灰褐	7.5 Y R4/3 褐	調整不明	縄文+工具による沈線3条 縄文(縦位)	後期
18	SX01 (A-4)	縄文土器	-	4.55	_	密	良	5YR6/6 橙	7.5 Y R5/3 にぶい褐	調整不明	縄文+沈線 区画する沈線文	後期
19	SX01	縄文土器 浅鉢	18.0	4.6	_	密	良	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	ミガキ	縄文 棒状工具沈線 調整不明	後期
20	SX01 (A-3)	縄文土器 浅鉢	18.6	2.5	_	密	良	7.5 Y R4/1 褐灰	7.5 Y R5/2 灰褐	ミガキ	羽状縄文 沈線 調整不明	後期
21	SX01 (A-3)	縄文土器 浅鉢	21.6	3.15	-	密	良	10YR7/2 にぶい黄橙	10 Y R4/1 褐灰	調整不明	羽状縄文 棒状工具沈線	後期
22	SX01 (A-1)	縄文土器	-	4.65		密	良	10YR7/4 にぶい黄橙	2.5 Y 4/1 黄灰	ミガキ	縄文	後期
23	SX01	縄文土器 深鉢	14.9	4.9	_	やや 粗	やや 不良	10 Y R8/4 浅黄橙	10 Y R7/3 にぶい黄橙	口縁部 面取り 調整不明	縄文	後期
24	SX01 (A-3)	縄文土器 鉢	9.4	2.8	-	やや 粗	良	10YR7/4 にぶい黄橙	10 Y R5/2 灰黄褐	調整不明	羽状縄文	後期
25	SX01 (A-2)	縄文土器	_	5.0	_	やや 粗	良	7.5 Y R 7/6 橙	7.5 Y R7/6 橙	調整不明	棒状工具沈線 斜縄文 調整不明	後期
26	SX01	縄文土器 深鉢	26.8	8.4	-	粗	不良	2.5 Y 8/1 灰白	10 Y R8/2 灰白	調整不明	縄文	後期
27	SX01	縄文土器 深鉢	14.4	3.3	-	密	良	7.5YR7/4 にぶい橙 10YR3/1 黒褐	7.5 Y R8/4 浅黄橙 10YR5/2 灰黄褐	ミガキ	羽状縄文 沈線 不明	後期雲母混
28	SX01	縄文土器	-	4.9	-	密	良	2.5 Y 3/1 黒褐	5 Y R6/6 橙	調整不明	縄文+棒状工具沈線	後期
29	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	36.4	3.5	-	密	良	10YR7/3 にぶい黄橙	10 Y R5/2 灰黄褐	口縁部 指頭による キザミ 調整不明	燃糸後ナデ消し? 調整不明	後期
30	SX01 (A-3)	縄文土器	-	4.2	-	密	良	7.5 Y R7/4 にぶい橙	7.5 Y R7/4 にぶい橙	ミガキ 調整不明	調整不明 燃糸?	後期
31	SX01	縄文土器	-	4.4	-	密	良	7.5YR7/4 にぶい橙	10 Y R6/3 にぶい黄橙	調整不明	燃糸文?	後期

# 表 2 遺物観察表(1)

		<b>开</b> :	<u> </u>	態		胎土		色	調用	成		
番号	出土地点	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	質	焼成	内 面	外 面	内 面	外 面	備考
32	SX01 (A-1)	縄文土器深鉢	24.6	4.7	-	密	良	10 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R8/4 浅黄橙	ナデ?	沈線文 撚糸文?	後期雲母混
33	SX01	縄文土器 浅鉢	22.8	4.9	_	密	良	10 Y R6/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	調整不明(ミガキ?)	縄文斜位+棒状工具沈線3条 調整不明(ミガキ?)	後期
34	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	22.6	2.55	_	密	良	7.5 Y R7/6 橙	7.5 Y R6/4 にぶい橙	調整不明	磨消縄文+沈線	後期
35	SX01	縄文土器 浅鉢	38.8	2.95	_	粗	やや 不良	10 Y R7/3 にぶい黄橙	10 Y R8/4 浅黄橙	調整不明	沈線	後期
36	SX01	縄文土器 浅鉢	25.7	4.45	_	粗	良	10 Y R7/3 にぶい黄橙	10 Y R4/2 灰黄褐	調整不明	調整不明縄文	後期
37	SX01 No.24 Z=15.371	縄文土器	1_	6.8	_	やや 粗	良	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5 Y R5/3 にぶい褐	指頭沈線 ミガキ?	ミガキ? 沈線 縄文(斜位)	後期
38	SX01 (A-3)	縄文土器	_	3.8	_	密	良	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5 Y R4/2 灰褐	調整不明	棒状工具沈線3条調整不明	後期
39	SX01	縄文土器深鉢	9.4	4.15	_	密	良	10 Y R5/2 灰黄褐	10 Y R5/2 灰黄褐	ミガキ?	縄文+棒状工具沈線	後期
40	SX01 (A-1)	縄文土器深鉢	30.3	7.9	_	やや 粗	良	10 Y R5/2 灰黄褐	7.5 Y R7/4 にぶい橙	口縁部 小波状調整不明	縄文? 沈線文 調整不明	後期
41	SX01	縄文土器	_	3.2	_	密	良	10 Y R7/3 にぶい黄橙	10 Y R8/3 浅黄橙	調整不明	円形突起(玉?) 棒状工具三叉文	後期
42	SX01 (A-3)	縄文土器	-	3.25	_	やや 粗	不良	10 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R7/3 にぶい黄橙	調整不明	ヘラ状工具キザミ 調整不明(小突起有り)	後期
43	SX01 (A-2)	縄文土器	_	2.7	_	やや 粗	やや 不良	2.5 Y 7/1 灰白	10 Y R8/2 灰白	口縁部 貼付による 円形装飾突起 調整不明	縄文?	後期
44	SX01 (A-1)	縄文土器鉢	39.3	2.9	_	粗	やや不良	10 Y R6/1 褐灰	10 Y R8/2 灰白	口縁部 突起調整不明	斜縄文 沈線 棒状工具刺突 調整不明	後期
45	SX01 (A-3)	縄文土器	-	2.4	-	密	良	10 Y R6/1 褐灰	10 Y R8/3 浅黄橙	調整不明	棒状工具刺突 棒状工具沈線文	後期
46	SX01 (A-1)	縄文土器 鉢	23.8	3.2	-	密	良	7.5 Y R6/3 にぶい褐	10YR7/3 にぶい黄橙	ミガキ?	沈線+刺突	後期
47	SX01	縄文土器	_	2.85	-	粗	やや 不良	10 Y R8/4 浅黄橙	2.5 Y 7/2 灰黄	調整不明	棒状工具沈線	後期
48	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	26.0	4.7	-	密	良	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5 Y R5/2 灰褐	ナデ?	ヨコナデ? 縄文(斜位)	後期
49	SX01	縄文土器 深鉢	13.1	3.1	-	密	良	7.5 Y R6/4 にぶい橙	7.5 Y R6/4 にぶい橙	調整不明	指頭沈線 縄文斜位 調整不明	後期
50	SX01	縄文土器	_	4.8	_	やや 粗	やや良	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙	調整不明	指頭による沈線3条 調整不明	後期
51	SX01 (A-1)	縄文土器	_	2.35	-	密	良	5YR6/6 橙	5 Y R6/6 橙	調整不明	縄文(斜位) 沈線 調整不明	後期
52	SX01 No.20 Z=15.313	縄文土器 深鉢	30.6	11.7	-	密	良	5YR7/8 橙 (10YR7/4 にぶい黄橙 混)	7.5 Y R7/8 黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙	ロ縁部 ナデ ナデ	単節斜縄文LL	後期 雲母混
53	SX01 (A-2)	縄文土器 浅鉢	16.9	8.3	-	密	良	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5 Y R7/4 にぶい橙	ミガキ	縄文(斜位)	後期
54	SX01 (A-4)	縄文土器 深鉢	44.2	6.4	-	密	良	10 Y R6/2 灰黄褐	10 Y R 7/3 にぶい黄橙	ミガキ?	斜縄文	後期
55	SX01 (A-1)	縄文土器深鉢	23.7	7.2	-	密	良	10 Y R7/3 にぶい黄橙	5YR7/6 橙	ミガキ?	縄文(斜位)	後期
56	SX01	縄文土器 深鉢	36.8	5.1	_	密	良	7.5 Y R7/6 橙	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR5/1 褐灰	ナデ	単節斜縄文RL	後期 雲母混
57	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	25.8	5.25	-	密	良	10 Y R3/2 黒褐	10 Y R3/2 黒褐	指頭沈線 調整不明(ナデ?)	縄文(斜位)	後期
58	SX01 (A-2)	縄文土器深鉢	34.2	4.1	-	密	良	10 Y R6/4 にぶい黄橙 N4/4 灰	N4/4 灰 10YR7/1 灰白	ミガキ?	縄文(斜位)	後期 雲母混
59	SX01	縄文土器深鉢	22.6	3.05	-	密	良	5YR7/6 橙	5 Y R6/6 橙	口縁部 面取り 調整不明	縄文(斜位) 調整不明	後期
60	SX01 No.26 Z=15.307	縄文土器 深鉢	39.8	7.1	-	密	良	7.5 Y R8/4 浅黄橙	7.5YR6/1 褐灰 (7.5YR8/6 浅黄橙混)	ナデ	単節斜縄文	後期 雲母混 外面にスス付着
61	SX01 (A-1)	縄文土器 鉢	27.0	5.5	-	密	やや 不良	10 Y R6/2 灰黄褐	10 Y R6/2 灰黄褐	調整不明	縄文(斜位)	後期
62	SX01	縄文土器 深鉢	14.6	3.85	-	やや 粗	良	7.5 Y R6/3 にぶい褐	7.5 Y R7/4 にぶい橙	斜縄文 調整不明	調整不明	後期
63	SX01	縄文土器 深鉢	16.8	3.4	-	粗	不良	2.5 Y 8/2 灰白	2.5 Y 7/1 灰白	調整不明	調整不明	後期
64	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	41.7	6.25	-	密	やや 不良	10 Y R6/2 灰黄褐	10 Y R7/2 にぶい黄橙	指頭沈線2条 調整不明	玉抱三叉文 調整不明	晩期前葉

表 3 遺物観察表(2)

		<b>Ж</b>	<u> </u>	態		胎土		色	調	成	形・調整	
番号	出土地点	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	質	焼成	内 面	外 面	内 面	外 面	備考
65	SX01	縄文土器	-	5.05	_	密	良	10 Y R5/2 灰黄褐	10 Y R4/1 褐灰 赤彩 2.5 Y R4/6 赤褐	ミガキ	赤彩 玉抱三叉文	晩期前葉
66	SX01 (A-2)	縄文土器深鉢	11.8	4.2	-	密	良	10 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R8/3 浅黄橙	調整不明	玉抱三叉文	晩期前葉
67	SX01	縄文土器	_	2.45	_	密	良	10 Y R6/1 褐灰 10 Y R6/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	調整不明	棒状工具沈線+(縄文?) 調整不明	晩期前葉
68	SX01	縄文土器 浅鉢	9.0	3.3	-	密	良	10 Y R4/2 灰黄褐	10YR8/3 浅黄橙	ミガキ	棒状工具沈線	晩期前葉
69	SX01 (A-2)	縄文土器	_	2.25	-		やや 不良	10 Y R8/2 灰白	2.5 Y 8/2 灰白	調整不明	玉抱三叉文	晩期前葉
70	SX01	縄文土器 深鉢?	-	3.35	_	密	良	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	玉抱三叉文	縄文(斜位)	晩期前葉
71	SX01 (A-3)	縄文土器	_	4.3	_	密	良	10 Y R8/3 浅黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	調整不明	縄文(斜位) 沈線 列点文 玉抱三叉文?	晩期前葉
72	SX01 (A-1)	縄文土器	_	4.5	_	密	やや 不良	10 Y R7/3 にぶい黄橙	10 Y R6/3 にぶい黄橙	調整不明	磨消縄文+沈線	晩期前葉
73	SX01 (A-3)	縄文土器 深鉢	29.7	3.3	_	やや 粗	やや 不良	7.5 Y R6/4 にぶい橙	7.5 Y R5/4 にぶい褐	口縁部 ヘラ状工具 キザミ 調整不明	縄文+棒状工具沈線	晩期前葉
74	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	28.7	2.95	_	やや 粗	良	10 Y R8/3 浅黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	調整不明	棒状工具沈線 調整不明	晚期前葉
75	SX01 (A-2)	縄文土器	_	2.85	_	密	良	10 Y R4/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	調整不明(ミガキ?)	縄文+棒状工具による鍵手 文	晩期前葉
76	SX01 (A-3)	縄文土器	_	5.6	_	密	良	7.5 Y R4/2 灰褐	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR5/2 灰黄褐	調整不明(ミガキ?)	鍵手文? 縄文	晩期前葉
77	SX01 (A-3)	縄文土器	17.4	1.65	_	密	良	2.5 Y 4/1 黄灰	10 Y R4/2 灰黄褐	ミガキ	棒状工具キザミ 棒状工具三叉文	晚期前葉
78	SX01 (A-1)	縄文土器	_	4.25	_	やや 粗	良	7.5 Y R6/6 橙	7.5 Y R7/6 橙	調整不明	縄文+沈線	晚期前葉
79	SX01 (A-2)	縄文土器	_	5.55	-	やや粗	不良	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	調整不明	棒状工具沈線 斜縄文 調整不明	晚期前葉
80	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	24.2	4.35	_	密	良	10 Y R6/3 にぶい黄橙	10 Y R8/4 浅黄橙	ミガキ?	斜縄文 棒状工具沈線 調整不明	晩期前葉
81	SX01 (A-1)	縄文土器 浅鉢	_	3.8	_	密	良	10 Y R4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	ミガキ 単節斜縄文 棒状工具による沈線	赤彩 ミガキ 単節斜縄文 棒状工具による沈線	晩期前葉 赤彩あり(内外面 とも全体に塗付? )
82	SX01 (A-2)	縄文土器	-	2.6	-	密	良	2.5 Y 4/1 黄灰	10 Y R7/3 にぶい黄橙	口縁部 面取り ミガキ	調整不明	晩期前葉
83	SX01 (A-2)	縄文土器	_	5.05	_	密	良	5YR6/4 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙	ミガキ?	調整不明	晩期前葉
84	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	14.2	2.95	_	璐	やや 不良	2.5 Y 6/1 黄灰	10 Y R8/2 灰白	調整不明	調整不明	晩期前葉
85	SX01 (A-2)	縄文土器	_	4.15	-	密	良	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	調整不明	斜縄文	晚期前葉
86	SX01 (A-3)	縄文土器 浅鉢	_	3.65	_	密	良	10 Y R5/2 灰黄褐	7.5 Y R7/6 橙	口縁部 小波状 ミガキ?	縄文(斜位)	晚期前葉
87	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	37.3	3.2	_	やや 粗	良	7.5 Y R7/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙	調整不明	調整不明	晩期前葉
88	SX01 (A-2)	縄文土器	_	2.85	_	密	良	10 Y R8/2 灰白	10 Y R8/2 灰白	口縁部 縄文+三叉文調整不明	調整不明	晩期前葉
89	SX01	縄文土器 浅鉢	30.6	2.5	-	やや 粗	良	10 Y R8/3 浅黄橙 赤彩 5YR6/8 橙	7.5 Y R8/4 浅黄橙	口縁部 棒状工具沈線 赤彩	調整不明	晩期前葉
90	SX01 (A-2)	縄文土器 浅鉢	30.2	3.65	_	密	良	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	口縁部 棒状工具沈 線 ミガキ	ミガキ	晚期前葉
91	SX01 (A-1)	縄文土器 浅鉢	38.2	2.8	_	密	良	10 Y R6/3 にぶい黄橙	7.5 Y R6/2 灰褐	口縁部 三叉文 ミガキ?	ミガキ?	晩期前葉
92	SX01	縄文土器 浅鉢	45.4	6.05	-	やや 粗	良	10 Y R5/2 灰黄褐 10 Y R6/2 灰黄褐	10 Y R7/3 にぶい黄橙	ミガキ調整不明	調整不明	晩期前葉
93	SX01 (A-1)	縄文土器 浅鉢	41.6	4.0	-	密	良	10 Y R7/3 にぶい黄橙	7.5 Y R8/4 浅黄橙	口縁部 面取り ミガキ?	ミガキ	晩期前葉
94	SX01 (A-2)	縄文土器 浅鉢	29.2	4.45	-	密	良	10YR5/2 灰黄褐	5YR7/6 橙	口縁部 面取+ミガキ ミガキ	ミガキ?	晩期前葉
95	SX01 (A-2)	縄文土器 浅鉢	20.2	3.45	_	やや 粗	やや 不良	2.5 Y 5/2 暗灰黄	10 Y R8/3 浅黄橙	調整不明	調整不明	晩期前葉
96	SX01No. 1Z=15.404	细女工品	-	7.85	-	やや粗	良	10 Y R3/1 黒褐	7.5 Y R5/3 にぶい褐 7.5 Y R7/4 にぶい橙	調整不明	磨消縄文+沈線+鍵手文	晩期中葉
97	SX01No. 2Z=15.375	细士工品	-	6.95	-	密	良	10 Y R7/4 にぶい黄橙		調整不明	磨消縄文+沈線+鍵手文?	晩期中葉

表 4 遺物観察表 (3)

$\neg \tau$				態		胎土		色	電用	成	形・調整	
番号	出土地点	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	質	焼成	内 面	外 面	内 面	外 面	備考
98	SX01 No.38 Z=15.291	縄文土器	-	6.05	-	密	良	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	ミガキ? -	鍵手文? 縄文(斜位)	晩期中葉
99	SX01 (A-4)	縄文土器	-	4.35	_	やや 粗	良	10 Y R 7/3 にぶい黄橙	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	調整不明	縄文+棒状工具による沈線	晩期中葉
100	SX01 (A-1)	縄文土器	-	4.25	-	やや 粗	やや 不良	10YR7/4 にぶい黄橙	10 Y R 7/3 にぶい黄橙	調整不明	縄文+沈線	晚期中葉
101	SX01 (A-3)	縄文土器 深鉢	18.6	3.7	-	密	良	10 Y R3/2 黒褐	7.5 Y R6/4 にぶい橙	ミガキ	ナデ? 棒状工具による沈線+列点 文	晚期中葉 雲母片混
102	SX01	縄文土器 深鉢	20.3	2.95	-	密	良	10 Y R3/2 黒褐	5 Y R6/6 橙	口縁部 指頭による 小波状 ミガキ?	調整不明 棒状工具沈線+列点文	晩期中葉
103	SX01 (A-1)	縄文土器	-	4.9	-	密	良	10 Y R3/2 黒褐	10 Y R3/2 黒褐	ミガキ	沈線間に刺突(斜位)	晩期中葉
104	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	17.3	2.85	_	密	良	10 Y R7/3 にぶい黄橙	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	調整不明	斜縄文 棒状工具沈線 調整不明	晩期中葉
105	SX01 (A-2)	縄文土器	-	3.35	_	密	良	7.5 Y R6/4 にぶい橙	7.5 Y R5/3 にぶい褐	調整不明	ミガキ+充てん縄文+棒状工 具沈線、列点文	晩期中葉
106	SX01 (A-3)	縄文土器	-	2.35	-	密	やや 不良	2.5 Y 4/1 黄灰	10 Y R7/4 にぶい黄橙	調整不明	縄文+棒状工具沈線	晩期中葉
107	SX01 (A-3)	縄文土器	_	3.25	-	やや 粗	やや 不良	10 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R8/3 浅黄橙	調整不明	押引列点文?	晚期中葉
108	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢	18.7	6.2	-	やや 粗	やや 不良	10 Y R6/3 にぶい黄橙	5YR7/8 橙	調整不明	縄文? (刺突)列点文 調整不明	晚期中葉
109	SX01	縄文土器	_	3.8	-	密	良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	調整不明	縄文+棒状工具沈線 ヘラ状工具沈線文	晩期中葉
110	SX01	縄文土器	_	4.0	-	やや粗	良	10 Y R5/2 灰黄褐	10 Y R6/1 灰褐	口縁部 小波状ミガキ	縄文?	晚期中葉
111	SX01 (A-3)	縄文土器 浅鉢	35.6	4.0	-	やや粗	やや 不良	10 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R8/3 浅黄橙	口縁部 沈線+小突起調整不明	調整不明(条痕ナデ消し?)	晩期中葉
112	SX01 (A-1)	縄文土器	43.8	4.35		密	良	10YR7/3 にぶい黄橙	10 Y R6/2 灰黄褐	口縁部 面取り	ミガキ	晚期中葉
113	SX01	縄文土器浅鉢	19.4	4.9	-	粗	良	5 Y R6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁部 縄文、粘土 貼付、三叉文 調整不明	調整不明	晩期中葉
114	SX01 No.3 Z=15.357	縄文土器浅鉢	29.6	6.25	-	密	良	10YR3/1 黒褐 (10YR7/3 にぶい黄橙 混)	10YR7/6 明黄褐 (10YR5/1 褐灰混)	口縁部 縄文+棒状工 具沈線+貼付突起4 単位 ミガキ	調整不明(ミガキ?)	晚期中葉 雲母混
115	SX01 (A-3)	縄文土器	-	1.9	-	密	良	10 Y R4/1 褐灰	10 Y R4/2 灰黄褐	調整不明	棒状工具沈線 調整不明	晩期中葉
116	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	29.7	3.85	-	粗	良	7.5YR7/6 橙	10 Y R7/4 にぶい黄橙	調整不明	斜縄文 調整不明	晚期中葉
117	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	25.1	3.8	-	やや粗	良	10 Y R6/3 にぶい黄橙	10 Y R7/4 にぶい黄橙	口縁部 棒状工具キ ザミ 調整不明	調整不明	晩期中葉
118	SX01 (A-3)	縄文土器 深鉢	29.4	2.95	_	密	良	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	7.5 Y R7/4 にぶい橙	口縁部 ヘラ状工具 によるキザミ 調整不明	調整不明	晩期中葉
119	SX01 (A-3)	縄文土器 深鉢	38.9	5.9	-	やや 粗	良	7.5 Y R 7/6 橙	5YR7/6 橙	調整不明	調整不明	晚期中葉
120	SX01 (A-1)	縄文土器 深鉢	33.1	10.6	_	密	良	10YR7/4 にぶい黄橙 (2.5YR5/8 明赤褐混)	10YR7/4 にぶい黄橙 (2.5YR5/8 明赤褐混)	口縁部 工具による 刺突 ナデ?	調整不明(二枚貝条痕?)	晚期中葉 雲母混
121	SX01 (A-1)	縄文土器深鉢	33.0	6.3	-	密	良	5 Y R6/6 橙	5 Y R6/6 橙	口縁部 面取り	二枚貝条痕	晩期
122		縄文土器深鉢	24.6	5.3	-	密	良	7.5 Y R8/4 浅黄橙	10 Y R3/1 黒褐	口縁部 ナデミガキ	ナデニー枚貝条痕	晚期 雲母混
123	SX01 (A-2)	縄文土器深鉢	27.0	5.0	-	密	良	7.5 Y R7/6 橙	7.5 Y R8/3 浅黄橙	ナデ	二枚貝条痕文	晚期 雲母混
124	SX01 (A-1)	縄文土器深鉢	24.4	4.8	-	密	良	10 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R 7/3 にぶい黄橙	調整不明	条痕	晚期
125	SX01 (A-1)	縄文土器深鉢	29.6	5.9	-	密	良	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR5/6 明褐	7.5 Y R5/6 明褐 7.5 Y R8/2 灰白	ナデ	ナデニー 大学	晚期 雲母混
126	SX01 (A-2)	縄文土器深鉢	27.4	10.4	-	密	良	10 Y R8/2 灰白 10 Y R4/3 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR4/3 にぶい黄褐	ナデ?	無節斜縄文?	晩期 雲母混 外面にスス混じる
127	SX01 No.11 Z=15.397	縄文土器深鉢	18.0	5.3	-	密	良	10 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R 7/4 にぶい黄橙	口縁部 ナデミガキ・条痕	ミガキ	晩期 雲母混 内面にスス混じる
128	SX01 (A-1)	縄文土器	17.2	5.85	-	密	良	7.5 Y R4/2 灰褐	10 YR6/3 にぶい黄橙	ミガキ	ミガキ	晩期

表 5 遺物観察表 (4)

		<b>Ж</b>	}	態		胎土			色	調		рi		
番号	出土地点	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	質	焼成	内	面	外	面	内 面	外面	備考
129	SX01	縄文土器	-	3.55	_	粗	良	10 Y R8/3	浅黄橙	7.5 Y R8/3	浅黄橙	ナデ?	ナデ?	弥生土器?
130	SX01	縄文土器 鉢	16.3	3.5	_	粗	不良	10YR8/4	浅黄橙	10 Y R8/3	浅黄橙	調整不明	調整不明	晩期
131	SX01 (A-2)	縄文土器 鉢	13.8	4.7	-	密	良	10 Y R4/2	灰黄褐	10YR6/4	にぶい黄橙	ミガキ	ミガキ	晚期 雲母混
132	SX01	縄文土器 深鉢	21.7	2.9	_	璐	良	10 Y R4/2	灰黄褐	10 Y R5/2	灰黄褐	ミガキ	ミガキ	晩期
133	SX01 (A-2)	縄文土器	-	4.1	_	やや 粗	良	10 Y R8/4	浅黄橙	10YR8/4	浅黄橙	調整不明	調整不明	晩期
134	SX01 (A-1)	縄文土器	-	2.15	-	やや 粗	良	10YR7/3	にぶい黄橙	7.5 Y R7/4	にぶい橙	調整不明	調整不明	弥生土器?
135	SK03 (A-4)	縄文土器	-	2.05	_	密	良	10YR7/4	にぶい黄橙	10 Y R5/2 赤彩 2.5YR		ナデ	赤彩 ヘラ状工具による沈線(H状 文)	
136	SK03 (A-4)	縄文土器	_	3.4		密	良	10 Y R8/2	灰白	10YR7/4	にぶい黄橙	調整不明	縄文	
137	SK03 (A-4)	縄文土器 深鉢	31.2	6.15	-	やや 粗	良	10 Y R7/3	にぶい黄橙	10 Y R7/3	にぶい黄橙	調整不明	縄文	
138	SK03 (A-4)	縄文土器	_	3.65	-	やや 粗	良	10 Y R7/4	にぶい黄橙	5YR7/6 橙	ŧ	ナデ	縄文 棒状工具による沈線	
139	SK03 (A-4)	縄文土器 深鉢	21.6	1.7	-	密	良	10 Y R4/1	褐灰	7.5 Y R7/4	にぶい橙	調整不明	斜縄文	
140	SK03 (A-4)	縄文土器浅鉢か蓋	39.4	9.7	_	密	良	7.5YR5/2 (7.5YR8/4		7.5 Y R4/2 7.5 Y R7/4		ミガキ	調整不明 平行沈線文(棒状工具2条) 複節斜縄文 沈線(棒状工具) ミガキ	雲母混
141	SK03 (A-4)	縄文土器	-	3.0	-	密	良	10 Y R7/3	にぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	調整不明	調整不明 沈線 縄文	
142	SK03 (A-4)	縄文土器	-	2.5	-	密	良	7.5 Y R7/6	橙	5 Y R6/6 橙	i	口縁部 三叉文 ミガキ	横縄文 沈線	
143	SK03 (A-4)	縄文土器	37.8	2.45	-	密	良	10 Y R7/4	にぶい黄橙	7.5 Y R7/4	にぶい橙	調整不明	ヘラ状工具によるキザミ 縄文(斜位)	
144	SK03	縄文土器	_	2.9	-	やや 粗	良	2.5 Y 5/1 j	黄灰	10YR7/3	にぶい黄橙	調整不明	調整不明縄文	
145	SK03 (A-4)	縄文土器	-	2.6	_	密	良	10 Y R6/3	にぶい黄橙	10 Y R6/3	にぶい黄橙	口縁部 ヘラ状工具 による沈線 調整不明	調整不明	
146	SK03 (A-4)	縄文土器深鉢	20.7	5.6	-	密	良	10 Y R6/4	にぶい黄橙	10 Y R6/4	にぶい黄橙	口縁部 キザミナデ	縄文(単節斜縄文)後三叉文 か入組文	晩期前葉
147	SK03 (A-4)	縄文土器	_	4.7	-	密	良	10 Y R7/3	にぶい黄橙	10 Y R8/4	浅黄橙	調整不明(ミガキ?)	沈線+列点文	
148	SK03 (A-4)	縄文土器	_	3.5	-	やや 粗	良	10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	口縁部 棒状工具に よるキザミ 調整不明	縄文 棒状工具による沈線	
149	SK03 (A-4)	縄文土器浅鉢	32.0	4.35	-	やや 粗	良	10 Y R7/4 赤彩 5 YR6		10 Y R7/4 赤彩 5 Y R6		赤彩 ミガキ	赤彩 縄文(横位) 沈線(棒状工具)	
150	SK03	縄文土器鉢	15.8	3.5	-	やや 粗	良	7.5 Y R7/6	6 橙	5YR6/6 橙	ž	調整不明	調整不明 ヘラ状工具による沈線	
151	SK03 (A-4)	縄文土器	19.5	3.6	-	密	やや 不良	10 Y R7/3	にぶい黄橙	10 Y R7/3	にぶい黄橙	ミガキ	棒状工具沈線(入組文?)	
152	SK03 (A-4)	縄文土器 浅鉢	21.7	2.8	_	密	良	10 Y R6/2	灰黄褐	10 Y R6/3	にぶい黄橙	ミガキ	縄文 棒状工具による刺突+沈線	
153	SK03	縄文土器	_	2.55	-	密	良	10 Y R4/2	灰黄褐	10YR7/3	にぶい黄橙	調整不明	赤彩 沈線 縄文 棒状工具刺突	
154	SK03 (A-4)	縄文土器	_	2.6	-	密	良	10 Y R6/3	にぶい黄橙	10 Y R5/2	灰黄褐	ナデ	赤彩 縄文+棒状工具沈線	
155	SK03 (A-4)	縄文土器	_	3.0	-	密	良	5 Y R5/6 B 5 Y R4/3		5 Y R5/6 即 10YR3/2 身		調整不明	棒状工具による刺突と沈線 斜縄文	全体に焦げている?
156	SK03 (A-4)	縄文土器	_	4.5	-	粗	良	5YR7/6 # 10YR7/3	登 にぶい黄橙	10 Y R8/4	浅黄橙	調整不明	縄文 棒状工具による刺突 調整不明	
157	SK03 (A-4)	縄文土器	-	2.3	-	密	良	10 Y R8/2	灰白	10 Y R 7/2	にぶい黄橙	口縁部 ヘラ状工具 による刺突 調整不明	調整不明	
158	SK03	縄文土器深鉢	39.4	2.6	-	密	良	7.5 Y R4/2	2 灰褐	10 Y R5/3	にぶい黄褐	口縁部 棒状工具刺	斜縄文 棒状工具刺突	

## 表 6 遺物観察表(5)

		形	5	態	100	胎土		色	調	र्घ	形・調整	***	
番号	出土地点	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	質	焼成	内 面	外 面	内 面	外 面	備	考
159	SK03 (A-4)	縄文土器 深鉢	34.6	4.4	_	密	良	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄	口縁部 指頭による 小波状 ミガキ?	条痕?		
160	SK03 (A-4)	縄文土器 深鉢	24.9	8.2	_	やや 粗	良	2.5 Y 6/2 灰黄	10YR7/3 にぶい黄	置 調整不明	調整不明(ヘラ状工具による ナデ?) 刺突(棒状工具)		
161	SK03 (A-4)	縄文土器 深鉢	11.6	2.95	-	密	良	7.5 Y R7/6 橙	10YR7/4 にぶい黄	口縁部 指頭による 小波状 調整不明	調整不明		
162	SK03 (A-4)	縄文土器	_	3.6	-	密	良	10 Y R5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄	登 ミガキ?	調整不明		
163	SK03 (A-4)	縄文土器 深鉢	49.4	4.65	_	やや 粗	良	10 Y R5/1 褐灰	10YR6/3 にぶい黄	口縁部 ヘラ状工具 によるキザミ ミガキ	調整不明(横位条痕?)		
164	SK03 (A-4)	縄文土器 深鉢	28.8	3.95	_	密	良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄	口縁部 ヘラ状工具 によるキザミ ナデ?	ナデ?		
165	SK03 (A-4)	縄文土器 深鉢	36.7	3.0	_	やや 粗	良	10 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R8/3 浅黄橙	口縁部 棒状工具に よる刺突 調整不明	調整不明		
166	SK03 (A-4)	縄文土器 深鉢	18.0	5.9	-	やや 粗	良	7.5 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R8/3 浅黄橙	ナデ?	貝殼条痕文		
167	SK03 (A-4)	縄文土器深鉢	40.1	5.8	-	やや粗	良	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	10 Y R7/3 にぶい黄	證 調整不明	条痕文?		
168	SK03 (A-4)	縄文土器	-	4.7	-	密	良	10 Y R5/2 灰黄褐	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	ミガキ	二枚貝条痕		
169	SK03 (A-4)	縄文土器 浅鉢	17.0	2.6	_	密	良	10 Y R8/2 灰白	10 Y R8/4 浅黄橙	ヘラ状工具による沈 線 調整不明	調整不明		
170	SK03	縄文土器 深鉢	10.1	4.2	-	粗	良	7.5 Y R8/6 浅黄橙	7.5 Y R8/6 浅黄橙	調整不明	調整不明		
171	SK03 (A-4)	縄文土器深鉢	24.8	3.6	-	やや粗	良	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	5YR7/4 にぶい橙	調整不明	調整不明		
172	SK03 (A-4)	縄文土器	_	3.45	-	密	良	2.5 Y 5/1 黄灰	10 Y R4/1 褐灰	調整不明	調整不明		
173	SK03 (A-4)	縄文土器	_	3.2	-	密	やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5 Y R6/4 にぶい橙	調整不明	縄文? クシ状工具波状文2条 縄文		
174	SK03 (A-4)	縄文土器	36.6	2.9	-	やや粗	良	10 Y R7/1 灰白	10 Y R8/2 灰白	調整不明	調整不明		
175	SK03 (A-4)	縄文土器 浅鉢	16.0	2.4	-	密	良	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄	登 ミガキ?	調整不明		
176	SK03 (A-4)	縄文土器	_	2.35	8.6	やや粗	良	10 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R8/4 浅黄橙	調整不明	ケズリ 一部網代工具痕?		
177	SK03 (A-4)	縄文土器	_	2.75	5.6	やや粗	良	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	10 Y R5/2 灰黄褐	調整不明	調整不明		
178	SK03	縄文土器	-	3.35	4.6	粗	良	10 Y R7/3 にぶい黄橙	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	調整不明	調整不明		
179	SK03 (A-4)	縄文土器	-	5.8	6.3	粗	良	10 Y R 7/4 にぶい黄橙	2.5 Y R 7/8 橙 10 Y R 8/4 浅黄橙	調整不明	調整不明		
180	SK05	縄文土器	_	2.55	-	密	良	10 Y R5/2 灰黄褐	10 Y R8/4 浅黄橙	調整不明	羽状縄文		
181	SK05	縄文土器 浅鉢	8.5	2.15	-	密	良	10 Y R6/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄	登 調整不明	沈線		
182	SK05	縄文土器	-	2.7	_	やや 粗	良	10 Y R 7/4 にぶい黄橙	10 Y R8/2 灰白	口縁部 突起調整不明	沈線+瘤?		
183	\$K05	縄文土器深鉢	28.0	3.75	-	密	良	10 Y R 7/3 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄	登 ナデ?	斜縄文		
184	SK05	縄文土器深鉢	24.7	3.3	-	密	良	10 Y R8/4 浅黄橙	10YR6/3 にぶい黄	登 調整不明	指頭沈線		
185	SK05	縄文土器	_	2.55	_	密	良	5 Y R6/6 橙	5 Y R6/6 橙	調整不明	調整不明 沈線 縄文+指頭沈線(縦)		
186	SK05	縄文土器 深鉢	34.5	4.9	-	密	良	10 Y R6/3 にぶい黄橙	10 Y R5/2 灰黄褐	ナデ?	斜縄文		
187	SK05	縄文土器 浅鉢	25.0	2.6	-	密	良	10 Y R6/3 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄	登 調整不明	調整不明へラ状工具沈線		
188	SK05	縄文土器	31.6	2.1	-	密	良	10 Y R7/3 にぶい黄橙	10 Y R6/2 灰黄褐	調整不明(ミガキ)	棒状工具沈線		
189	SK05	縄文土器	-	2.3	-	密	良	10 Y R6/2 灰黄褐	10YR7/4 にぶい黄	登 ミガキ?	玉抱三叉文+沈線		
190	SK05	縄文土器浅鉢	34.8	5.3	-	密	良	10 Y R 7/4 にぶい黄橙	5YR6/6 橙	口縁部 円形装飾ミガキ	斜縄文		
191	SK05 No.16 Z=15.614	縄文土器	12.0	3.2	-	密	良	5YR4/6 赤褐	2.5 Y R5/8 明赤褐	口縁部 棒状工具に よるキザミ 調整不明(ミガキ?)	細かい縄文 沈線+羊歯状文		

## 表 7 遺物観察表 (6)

		Я		態		胎土		色	調	成	沈形・調整	
番号	出土地点	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	質	焼成	内 面	外 面	内 面	外 面	備考
192	SK05	縄文土器	_	4.8	_	密	良	10 Y R5/2 灰黄褐	10 Y R6/3 にぶい黄橙	ミガキ?	沈線+刺突文 ミガキ	
193	SK05	縄文土器 深鉢	_	3.2	_	密	良	10YR5/2 灰黄褐	7.5 Y R4/2 灰褐	調整不明	ヘラ状工具キザミ 縄文(斜位)	
194	SK05	縄文土器鉢	37.3	5.15	_	密	良	10YR7/4 にぶい黄橙	10 Y R7/4 にぶい黄橙	口縁部 ヘラ状工具 キザミ ミガキ	縄文+棒状工具沈線文	
195	SK05	縄文土器	_	4.2	-	やや 粗	やや 不良	7.5 Y R 7/6 橙	10 Y R 7/3 にぶい黄橙	ナデ?	棒状工具による押引列点文 縄文+棒状工具沈線	
196	SK05	縄文土器	_	3.7	-	密	不良	10 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R8/3 浅黄橙 赤彩 7.5R4/6 赤	調整不明	赤彩 棒状工具列点文 縄文(斜位)	
197	SK05	縄文土器	_	1.85	_	密	やや 不良	10 Y R5/2 灰黄褐	2.5 Y 5/2 暗灰黄 赤彩 2.5 YR5/6 明赤褐	調整不明	赤彩 棒状工具列点文	
198	SK05	縄文土器	-	3.9	_	密	良	10YR7/4 にぶい黄橙	10 Y R6/4 にぶい黄橙	調整不明	沈線+刺突 条痕?	
199	SK05	縄文土器	_	3.3	_	密	やや不良	10 Y R5/2 灰黄褐 赤彩 10R4/6 赤	10 Y R6/3 にぶい黄橙 赤彩 10R4/6 赤	赤彩 ミガキ?	赤彩 棒状工具列点 ミガキ?	
200	SK05	縄文土器	19.3	1.85	-	密	不良	10 Y R4/1 褐灰	10 Y R8/3 浅黄橙	ミガキ?	縄文+棒状工具沈線	
201	SK05	縄文土器 深鉢	14.6	3.5	_	やや粗	良	10YR6/2 灰黄褐	2.5 Y 5/1 黄灰	調整不明	条痕	
202	SK05	縄文土器	_	6.1	_	密	良	7.5 Y R6/6 橙	10YR4/1 褐灰	口縁部 指頭による 小波状 ミガキ	条痕?	
203	SK05 No.22 Z=15.514	鉢	19.2	3.1	_	密	良	7.5 Y R7/4 にぶい橙	10 Y R5/1 褐灰	口縁部 ヘラ状工具 キザミ(斜位) 調整不明	調整不明	
204	SK05	縄文土器 深鉢	47.1	3.6	_	密	良	7.5 Y R7/6 橙	5YR6/6 橙	調整不明	条痕	
205	SK05	縄文土器 深鉢	30.9	2.9	_	密	良	10 Y R6/2 灰黄褐	10 Y R4/2 灰黄褐	調整不明(ミガキ?)	棒状工具キザミ 調整不明(ミガキ?)	
206	SK05	縄文土器	_	0.9	_	密	良	2.5 Y 8/1 灰白 2.5 Y R 6/6 橙	2.5 Y 5/1 黄灰	調整不明	網代(燃糸?)	
207	SK16	縄文土器	_	2.95	-	密	良	10 Y R5/2 灰黄褐	10 Y R4/1 褐灰	口縁部 指頭による 小波状 棒状工具沈線 調整不明	縄文	
208	SK16	縄文土器	_	3.65	_	密	良	10 Y R6/3 にぶい黄橙	7.5 Y R4/3 褐	調整不明	ヘラ状工具沈線(三叉文?) 調整不明	
209	SK16	縄文土器	_	2.5	-	やや粗	やや 不良	10 Y R5/2 灰黄褐	10 Y R4/3 にぶい黄褐	調整不明	縄文+沈線?	
210	SK16	縄文土器	_	2.65	-	やや 粗	良	10 Y R5/2 灰黄褐	10 Y R4/1 褐灰	調整不明	縄文+ヘラ状工具沈線	
211	SK15	縄文土器	-	3.0	-	密	良	10 Y R5/2 灰黄褐	10 Y R8/4 浅黄橙	口縁部 ヘラ状工具 沈線+キザミ 調整不明	調整不明	
212	SK15 No.1 Z=15.660	縄文土器 深鉢	39.6	6.25	-	やや 粗	良	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁部 面取り? 調整不明	指頭沈線 縄文(斜位)	
213	SK15	縄文土器 深鉢	29.0	12.1	_	密	良	7.5 Y R6/6 橙	7.5 Y R7/6 橙	ミガキ	単節斜縄文	雲母混
214	SK15	縄文土器 深鉢	19.7	11.4	_	密	良	7.5 Y R6/4 にぶい橙	10 Y R6/3 にぶい黄橙 5YR6/6 橙	調整不明焦げ跡あり	縄文(横〜斜位)	
215	SK15 No.1 Z=15.660	縄文土器 深鉢	34.8	10.45	-	密	良	7.5 Y R7/6 橙	10 Y R8/4 浅黄橙	ナデ	縄文(斜位)	
216	SK15 · 16	縄文土器	_	4.2	_	やや粗	良	10YR5/1 褐灰	10 Y R5/2 灰黄褐 赤彩 10R3/6 暗赤	調整不明	赤彩 斜縄文 棒状工具沈線 磨消?	
217	SK15	縄文土器	_	3.1	_	密	良	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5 Y R6/3 にぶい褐 赤彩 10R4/6 赤	ミガキ	赤彩 斜縄文+棒状工具沈線	
218	SK16	縄文土器	_	2.95	_	密	良	7.5 Y R6/4 にぶい橙	7.5 Y R7/6 橙	ミガキ	縄文+棒状工具沈線	
219	SK15 · 16	縄文土器 壷	11.3	5.4	-	粗	やや 不良	10 Y R 7/4 にぶい黄橙	2.5 Y 6/1 黄灰	調整不明	調整不明	
220	SK15 · 16	縄文土器深鉢		3.35	-	やや粗	やや不良	7.5 Y R7/6 橙	10 Y R 7/3 にぶい黄橙	調整不明	指頭圧痕による小波状 調整不明	
221	SK16	縄文土器 深鉢	31.6	7.3	_	密	良	10YR7/6 明黄褐	7.5 Y R7/8 黄橙	ミガキ	ナデ	雲母混
222	SK15No. 2Z=15.605	縄文土器	-	7.5	_	やや 粗	良	10YR4/2 灰黄褐	10 Y R6/3 にぶい黄橙	ミガキ?	二枚貝条痕	
223	SK16	縄文土器	_	2.15	_	密	良	7.5 Y R6/4 にぶい橙	7.5 Y R5/3 にぶい褐	調整不明	条痕?	

表 8 遺物観察表 (7)

		Я	3	態	300	胎土			色	調問			成形・調整	
番号	出土地点	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	質	焼成	内	面	外	面	内 面	外 面	一 備 考
224	SK16	縄文土器	-	2.7		やや粗	良	10 Y R5/2 灰	黄褐	10 Y R5/2	灭黄褐	調整不明	調整不明	注口土器の注口 雲母含
225	SX01 X=78184.281 Y=-854.540 Z=15.412	縄文土器 深鉢 底部	-	3.6	9.15	密	良	10 Y R7/4 (5	ぶい黄橙	10YR7/3	にぶい黄橙	調整不明	縄文(縦位) 網代	
226	SX01 (A-2)	縄文土器 深鉢		5.75	10.0	密	良	7.5 Y R6/6 档	<b>25</b> . <b>51</b> .	7.5 Y R6/6	橙	ョコナデ ヘラナデ 下→上 黒斑	ヨコナデ後縄文 ヘラケズリ 下→上 ヘラケズリ後ヨコナデ 網代痕 (2本超え、2本潜 り、1本送り) 繊維の幅0.3	金雲母を微量含む 〜3mm以下の小石 を多く含む
227	SX01 (A-2)	縄文土器	1_1	2.65	10.0	密	良	10YR7/3 (	ぶい黄橙	5YR7/6 橙	i .	調整不明	調整不明網代	
228	表土・排土	縄文土器	-	1.7	5.7	やや 粗	良	10YR6/3 に	ぶい黄橙	10 Y R5/2	灭黄褐	調整不明	調整不明網代	
229	SX01	縄文土器	-	1.85	13 .8	密	良	10YR4/1 複	灰	10 Y R7/3	にぶい黄橙	調整不明	調整不明網代	
230	SX01 (A-1)	縄文土器	-	3.0	5.5	密	良	7.5 Y R5/4 V	こぶい褐	7.5 Y R6/4	にぶい橙	ミガキ	ミガキ網代	
231	SX01	縄文土器	_	4.4	7.5	やや 粗	良	7.5 Y R7/4	こぶい橙	10 Y R7/4	にぶい黄橙	調整不明	ナデ? 網代	7.
232	SX01 (A-2)	縄文土器	-	3.95	5.4	やや 粗	良	10YR7/3 に	ぶい黄橙	10 Y R7/3	にぶい黄橙	調整不明	調整不明 簾状圧痕	
233	SX01 (A-2)	縄文土器	-	4.1	8.4	密	良	10 Y R6/2 灰	黄褐	7.5 Y R7/4	にぶい橙	調整不明	調整不明網代後ナデ?	
234	包含層 A-3	縄文土器	-	3.15	5.4	密	良	7.5 Y R7/6 杜 10 Y R6/3 に		7.5 Y R7/4	にぶい橙	ミガキ	調整不明	
235	SK14	縄文土器	-	2.65	_	密	良	10YR3/1 無	褐	7.5 Y R4/2	灰褐	ミガキ?	棒状工具沈線+列点文 縄文(斜位)	晩期
236	SK18	縄文土器 浅鉢	26.0	2.75	_	やや 粗	やや 不良	10YR8/4 浅	黄橙	10 Y R8/4	浅黄橙	縄文(斜位) 調整不明	調整不明	縄文後期
237	SK18	縄文土器	_	1.9	-	密	良	10YR5/2 灰	黄褐	10YR6/1	褐灰	調整不明	調整不明 棒状工具沈線 縄文?	縄文後期
238	SK18	縄文土器	-	4.05	1	粗	良	7.5 Y R 7/4 (	こぶい橙	7.5 Y R7/4	にぶい橙	指頭による押さえ 調整不明	? ヘラ状工具沈線	縄文後期
239	SK18	縄文土器	-	2.65	_	密	良	7.5 Y R7/4	こぶい橙	7.5 Y R7/4	にぶい橙	スダレ状圧痕 調整不明	調整不明	縄文後期
240	SK19	焼粘土塊	_	2.9	_	密	やや 不良	10YR7/4 (	ぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙	指頭圧痕	黒斑 指頭圧痕	
241	SP24	縄文土器	_	2.9	-	やや 粗	良	7.5 Y R7/6 相	竞	10YR8/2	灰白	調整不明	縄文斜位 沈線 調整不明	後期中~後葉
242	SK26	縄文土器	-	2.75	1	密		10YR7/4 に 10YR5/2 灰		10 Y R8/3	浅黄橙	口縁部 キザミ 調整不明	条痕?	晚期
243	SK26	縄文土器	_	2.75	-	密	良	10 Y R8/2 灰	白	10 Y R6/2	灰黄褐	調整不明	斜縄文+沈線	晚期
244	SK26	縄文土器	-	1.9		密	良	10YR5/3 (ವ	ぶい黄褐	10YR5/3	にぶい黄褐	口縁部 棒状工具 = ザミ 調整不明	調整不明	晚期
245	SK28	縄文土器 深鉢	17.7	2.8	_	密	良	10YR6/3 に	ぶい黄橙	10 Y R5/2	灰黄褐	ミガキ?	斜縄文 棒状工具沈線 ナデ?	後期中葉
246	SK28	縄文土器 深鉢	14.5	2.35	_	やや粗	良	7.5 Y R6/2 E	灭褐	10 Y R7/3	にぶい黄橙	調整不明	羽状縄文 沈線	後期中葉
247	SK28	縄文土器	_	3.95	-	粗	やや 不良	7.5 Y R7/6 档	<b>克</b>	7.5 Y R7/4	にぶい橙	調整不明	縄文+沈線	後期中葉
248	SK28	縄文土器	_	5.8	_	密	良	7.5 Y R5/4 (	こぶい褐	7.5 Y R4/3	褐	調整不明	燃糸	後期中葉
249	SK28	縄文土器	_	4.65	_	密	良	10YR4/1 複	灰	7.5 Y R4/2	灰褐	ミガキ?	羽状縄文+棒状工具沈線	後期中葉
250	包含層 谷地形? A-2	縄文土器 浅鉢	-	3.8	-,	密	良	10YR5/2 灰	黄褐	2.5 Y 3/1 景	禮	調整不明(ナデ?)	磨消縄文+棒状工具沈線 突起	後期中葉
251	包含層 A-1	縄文土器	-	3.15	_	密	良	10YR5/2 灰	黄褐	10YR4/1	褐灰	調整不明	磨消縄文	後期中葉
252	包含層 谷地形? A-2	縄文土器	-	3.75	_	密	良	10YR5/2 灰	黄褐	N3/1 暗灰		調整不明(ナデ?)	磨消縄文(充填)	後期中葉
253	包含層 谷地形? A-2	縄文土器	-	4.25	-	密	良	10 Y R5/2 灰	黄褐	10 Y R4/1	褐灰	調整不明(ナデ?)	磨消縄文(充填?)	後期中葉
254	包含層 A-2	縄文土器	-	3.3	-,	密	良	10 Y R6/2 灰	黄褐	2.5 Y 4/1 責	<b></b>	調整不明	磨消縄文+棒状工具沈線( 縦・横)	後期中葉
255	包含層 A-2	縄文土器 深鉢	11.6	2.55		やや 粗	良	7.5 Y R5/3 k	こぶい褐	7.5 Y R6/4	にぶい橙	ミガキ	羽状縄文	後期
256	包含層 A-1	縄文土器	-	5.35	_	密	良	7.5 Y R6/4 (	こぶい橙	10 Y R5/2	灰黄褐	調整不明	磨消縄文	後期
257	包含層 A-1	縄文土器	-	3.3	_	やや 粗	良	7.5 Y R6/4 V	こぶい橙	10 Y R6/3	にぶい黄橙	調整不明	磨消縄文+沈線	後期
258	包含層 A-1	縄文土器 鉢	13.2	3.1		密	良	10YR4/1 複	灰	10 Y R5/2	灰黄褐	調整不明(ナデ?)	縄文(羽状?)	後期
259	表土掘削 北側	縄文土器 深鉢	26.5	4.95	_	やや 粗	良	7.5 Y R5/3 (	こぶい褐	7.5 Y R4/2	灰褐	調整不明	羽状縄文	後期

表 9 遺物観察表 (8)

		Я	3	態		胎土		色	詞	成	形・調整	9
番号	出土地点	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	質	焼成	内 面	外 面	内 面	外 面	備考
260	包含層 谷地形? A-2	縄文土器 深鉢	27.6	4.2	-	密	良	10 Y R6/2 灰黄褐	10 Y R4/1 褐灰	ミガキ	縄文(斜位)	後期雲母混
261	包含層	縄文土器 深鉢	19.6	5.3	_	密	良	10YR5/2 灰黄褐 (10YR8/4 浅黄橙混)	10YR4/1 褐灰 (10YR8/2 灰白混)	ミガキ?	単節斜縄文 沈線文	後期 雲母混
262	包含層	縄文土器深鉢	31.3	5.6	_	やや 粗	やや不良	7.5 Y R7/6 橙	7.5 Y R6/6 橙	調整不明	燃糸文	後期
263	包含層	縄文土器	_	3.9	_	やや 粗	良	10YR4/2 灰黄褐	10 Y R3/2 黒褐	ミガキ	棒状工具沈線+刺突文 ミガキ	後期
264	包含層	縄文土器 浅鉢	22.9	4.15	_	粗	良	10 Y R6/3 にぶい黄橙	10 Y R6/3 にぶい黄橙 7.5YR5/1 褐灰	調整不明 (ミガキ?)	調整不明(ミガキ?) 縄文	後期
265	包含層 A-2	縄文土器	_	3.3	_	やや 粗	良	10 Y R 7/3 にぶい黄橙	10 Y R6/2 灰黄褐	調整不明	調整不明	後期
266	包含層 A-2	縄文土器	_	5.0	-	やや粗	良	10 Y R 7/3 にぶい黄橙	10 Y R 7/3 にぶい黄橙	調整不明	磨消縄文 棒状工具沈線	後期
267	包含層 A-1	縄文土器 浅鉢	29.4	3.7	-	密	良	7.5 Y R6/4 にぶい橙	7.5 Y R6/4 にぶい橙	口縁部 調整不明 ミガキ	磨消縄文	後期
268	包含層 A-4	縄文土器	_	3.4	-	密	良	10 Y R 7/3 にぶい黄橙	10 Y R6/2 灰黄褐	口縁部 面取り 調整不明	縄文(斜位)+指頭圧痕	後期
269	包含層 A-5	縄文土器	_	3.65	-	やや 粗	良	10 Y R5/2 灰黄褐	10 Y R4/1 褐灰	調整不明 指頭沈線	調整不明	後期
270	包含層 A-2	縄文土器	_	3.1	_	密	良	10 Y R7/2 にぶい黄橙	10 Y R8/2 灰白	ミガキ 棒状工具沈線1条	ミガキ	後期
271		縄文土器	_	2.0	_	密	良	7.5 Y R7/6 橙	7.5 Y R7/6 橙	調整不明	調整不明	後期
272		縄文土器 深鉢	18.8	3.3	-	密	良	10YR5/2 灰黄褐 (7.5YR6/4 にぶい橙混)	10YR4/2 灰黄褐  (7.5YR7/4 にぶい橙混)	口縁部 ミガキナデ	単節斜縄文	後期 雲母混
273	H-Z	縄文土器	_	4.75	-	粗	良	10 Y R6/2 灰黄褐	10 Y R6/2 灰黄褐	口縁部 調整不明  ミガキ	縄文(斜位)	後期
274		縄文土器 深鉢	27.5	3.45	-	密	良	7.5 Y R7/4 にぶい橙	2.5 Y 2/1 黒	口縁部 調整不明 ミガキ	黒色 炭化? 棒状工具沈線	後期
275	A-2	縄文土器 鉢	22.4	3.2	_	密	良	7.5YR6/4 にぶい橙 (7.5YR7/4 にぶい橙混)	7.5 Y R7/4 にぶい橙	ナデ	沈線文	後期 雲母混
276	A-5	縄文土器 深鉢?	_	3.85	_	粗なか	やや 不良	10 Y R8/4 浅黄橙	2.5 Y 8/1 灰白	調整不明	調整不明 ヘラ状工具沈線+突起	後期末
277	<u> </u>	縄文土器		6.2	_	密	良	10 Y R7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ミガキ?	磨消縄文	晩期前葉
278	A-5	縄文土器	-	6.85	-	粗	やや 不良	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	口縁部 小波状 調整不明	縄文+沈線	晩期前葉
279	A-5	縄文土器 浅鉢	_	3.45	_	密	良	7.5 Y R8/4 浅黄橙	7.5 Y R8/6 浅黄橙	調整不明	縄文+沈線(玉抱三叉文)	晩期前葉
280	包含層 A-2	縄文土器	_	3.7	-	密	良	10 Y R8/4 浅黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	調整不明	縄文+沈線(玉抱三叉文)	晩期前葉
281	包含層 A-2	縄文土器	-	2.55	-	密	良	10 Y R8/3 浅黄橙	   7.5 Y R7/4 にぶい橙 	口縁部  ヘラ状工具三叉文    調整不明	調整不明	晩期前葉
282	包含層 A-2	縄文土器	_	3.7	_	粗	やや不良	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙	調整不明	調整不明 磨消縄文	晩期前葉
283	与全国	縄文土器	_	3.55	_	粗	<u>- や</u> や 不良	10 Y R8/3 浅黄橙	7.5 Y R8/4 浅黄橙 10YR6/2 灰黄褐	口縁部 キザミ 調整不明	縄文(斜位) 沈線	晩期前葉
284	包含層	縄文土器 鉢	35.2	4.65	_	密	良	10 Y R7/2 にぶい黄橙 10 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R8/3 浅黄橙	口縁部 面取り+突起 +縄文(斜位)	ミガキ	晩期前葉
285		縄文土器	38.5	4.8	_	やや	良	10 Y R5/2 灰黄褐	7.5 Y R 5/4 にぶい褐	ミガキ 調整不明	ミガキ	晩期前葉
286		浅鉢 縄文土器 深鉢	12.4	3.4	_	粗密		5 Y R5/8 明赤褐	5 Y R5/8 明赤褐	口縁部 小突起+キザミ	単節斜縄文沈線 刺突文羊歯状文、入組文、 列点文	晩期前葉
287	表土・排土	縄文土器	_	2.95	_	密	良	7.5 Y R6/6 橙	5 Y R6/8 橙	調整不明	縄文(斜位)	晩期前葉
288	包含層 A-5	<u>無</u> 縄文土器	13.0	2.15	_	やや 粗	やや 不良	10 Y R8/3 浅黄橙	7.5 Y R7/4 にぶい橙	調整不明	羊歯状文	晩期前葉
289	与合臣	縄文土器	-	2.75	_	密	良	7.5 Y R6/3 にぶい褐	10 Y R5/2 灰黄褐	調整不明	棒状工具沈線	晩期前葉
290	調査区東側	縄文土器 深鉢	20.6	3.9	-	密	良	10 Y R5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐 10YR4/2 灰黄褐	調整不明	縄文+列点文 羊歯状文	晩期前葉
291	包含層 A-4	縄文土器	-	2.75	-	やや 粗	やや 不良	10 Y R8/3 浅黄橙	10 Y R8/3 浅黄橙	口縁部 キザミ+小突 起 調整不明	調整不明列点文	晩期前葉
292	包含層 A-2	縄文土器	_	4.65	_	やや 粗	やや 不良	10YR8/2 灰白	10 Y R6/1 褐灰	ミガキ?	鍵手文 縄文(斜位)	晩期前葉
293	与今区	縄文土器	_	2.6	_	密		10 Y R6/2 灰黄褐	7.5 Y R8/4 浅黄橙	ナデ? 指頭沈線	棒状工具沈線  ナデ	晩期前葉
294	包含層	縄文土器 浅鉢	19.6	2.2	_	密	良	10YR3/2 黒褐 (10YR7/3 にぶい黄橙 混)	7.5R4/8 赤 (10YR7/3 にぶい黄橙 混)	ナデ ミガキ(単位不明)	赤彩 工具痕による刺突 単節斜縄文	晩期前葉
295		縄文土器 浅鉢	24.7	2.7	-	密	やや 不良	10 Y R6/2 灰黄褐	10 Y R8/2 灰白	口縁部 小突起(B字状 )+ヘラ状工具キザミ ミガキ	縄文(斜位)	晩期前葉
296		縄文土器 浅鉢	46.0	3.45	_	やや粗	良	2.5 Y R6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁部 棒状工具沈線+突起3条+縄文調整不明	調整不明	晩期前葉
297	調査区東側	縄文土器	_	3.2	-	やや 粗	良	10 Y R5/2 灰黄褐	10 Y R5/3 にぶい黄褐	調整不明	調整不明 条痕(斜位)	晩期前葉
298	包含層 A-5	縄文土器 深鉢	30.2	4.85	-	やや粗	良	7.5 Y R7/6 橙	7.5 Y R 7/4 にぶい橙	調整不明	突帯+キザミ 二枚貝条痕後ナデ消?	凸帯文?

表 10 遺物観察表 (9)

番	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色	調	備考
号	山工地点	位件工里	(cm)	(cm)	(cm)	лат	KIEKK	内面	外面	川ち
299	SX01	土板	4.9	6.8	1.7	密	良	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	微量の金雲母を含む
300	SX01 (A-3)	不明土製品	4.55	3.25	0.8	密	やや 不良	2.5Y8/2 灰白	10YR7/4 にぶい黄橙	
301	SX01	有孔球状 土製品	4.4	5.65	3.2	密	良	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	
302	SK03 (A-4)	土偶(足)	4.8	2.9	2.3	密	良	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	
303	包含層 C-6	土偶(右 手)	4.15	2.35	2.5	密	良	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	
304	包含層 A-5	獣面突起	4.3	2.8	1.05	密	良	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	イノシシ形

表 11 遺物観察表 (10) (土製品)

番号	出土地点	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
305	SK19	石鏃	玉随か	28.0	10.9	6.6	1.8	尖基鏃
306	SX01 (A-3)	打製石斧	安山岩	106.3	60.0	19.1	115.0	撥形 片面に原礫面残存
307	SX01 (A-4)	打製石斧	安山岩	154.0	70.1	26.1	370.0	分銅形 片面に原礫面残存 一部被熱 磨石or砥石を転用か
308	SK03 (A-4)	打製石斧	安山岩	30.0	73.1	17.1	32.8	片面に原礫面残存 一部被熱 磨石or砥石を転用か
309	SX01 (A-3)	擦切石器	砂岩	79.5	52.9	12.4	62.2	打製石斧を転用か 被熱痕あり
310	SK03 (A-4)	磨製石斧	砂岩	33.5	26.2	21.5	20.3	定角式
311	SK05	磨製石斧	砂岩	25.9	41.9	17.7	20.6	定角式
312	SK05	磨製石斧	蛇紋岩	64.0	84.3	33.6	283.0	定角式 ネオジウム磁石に強く反応 帯磁率14.0~17.0×10 <sup>3</sup> SI(田中地 質製WSL-C) 中村のいう蛇紋岩と同定
313	SX01 (A-2)	打製石斧	安山岩	92.0	78.2	39.2	379.0	片面に原礫面残存 磨石or砥石を転用か
314	SX01 (A-1)	打製石斧	砂岩?	109.5	62.7	37.0	347.0	片面に原礫面残存 長楕円形の礫を整形
315	SX01	石棒	珪化木	64.1	24.2	14.2	26.0	
316	SX01 (A-3)	石刀	緑泥片岩	118.6	29.0	17.3	96.2	
317	表土掘削 北側	石皿	砂岩	70.6	59.9	25.5	78.8	両面使用
318	SK03 (A-4)	不明石器 未製品	安山岩	125.6	57.5	41.5	405.0	敲打により整形。一面研磨
319	SX01	凹石	泥岩	49.6	60.4	23.3	75.0	
320	SX01	凹石	砂岩	61.8	53.8	37.2	121.0	
321	SK05 No.25	敲石	砂岩?	103.3	76.9	50.6	545.0	ハンマーストーンとして利用か
322	C-2	凹石+敲石	砂岩	63.4	56.1	37.3	197.0	
323	試掘2T 西部包含層	砥石	安山岩	108.5	66.2	26.0	238.0	分銅形打製石斧を転用 元になった打製石斧は片面に原礫面残存

表 12 遺物観察表 (11) (石器)

### 第4章 総括

調査では、今まで富山市内では調査例の少ない縄文時代後期中葉から晩期の集落跡を確認した。

#### 第1節 吉作遺跡の遺構変遷

調査区は南東から北西に緩く傾斜する地形である。全域から、縄文時代後期中葉〜縄文時代晩期を 主体とする遺構を確認した。

SX01 は調査区北西に広がる深さ 1.25 mの自然地形の谷部である。今回調査した部分を水源とする谷頭と考えられ、発掘調査時も休憩時数分水中ポンプを止めるだけで水深 30~40cm に達するほど激しく湧水した。ここから縄文土器・土製品・石器が遺構埋土全体から大量に出土した。縄文土器はほとんど接合できなかったことから、壊されて廃棄された可能性が高い。遺物には土偶や石刀など祭祀に関連する遺物があることから、SX01 の遺構の性格は水に関する何らかの祭祀が行われたと考えられる。この SX01 を中心とした調査区全体の遺構分布および変遷は、縄文時代後期中葉に、調査区の北西部分に SX01 広がりはじめ、SK18 や SK28 が調査区の山側に作られる。このため縄文時代後期の居住域は調査区南東側の標高の高い部分に広がっていると推定される。縄文時代晩期前葉には、SX01は引き続き土器廃棄遺構として存在し、SK03 や SK15・16 が調査区のほぼ東半分に広がる。どちらも遺構の底面が平らではないため、竪穴建物のような性格の遺構ではなく、土坑のような性格の遺構であると考えられる。縄文時代晩期中葉になると、SX01 から少し離れて、SK05 や SK14 が作られる。SK05 付近からは、イノシシ形獣面突起が出土しており、特殊な用途の遺構の可能性がある。なお、縄文時代晩期を通じて、居住域は不明である。

なお調査区で縄文時代以降の遺物は須恵器・土師器数点以外出土しないため、吉作遺跡では、縄文 時代晩期以降、人々の生活は途絶え、奈良・平安時代まで人々は生活していなかったと考えられる。

#### 第2節 出土土器について

今回の調査では、縄文時代後期・晩期についてまとまった土器が出土し、当該期の富山県内の様相を知る好資料を得た。

出土した縄文土器は、完形品がなく全体のプロポーションが不明なため、他遺跡の調査で出土した土器を踏まえ、文様や調整方法によりおおまかに縄文時代後期と晩期に分けて掲載した。縄文時代後期の土器は、特に14について滑川市本江遺跡、朝日町境A遺跡、金沢市米泉遺跡から類似の土器が出土しており、北陸の後期後葉では広域に分布する土器の可能性がある。238は境A遺跡と桜町遺跡で類似の土器が出土している。239の格子文様は境A遺跡や本江遺跡に類例がある。182は長岡八町遺跡出土土器に類例があり八日市新保I式期、33は井口I~II式期、46・47は八日市新保II式期に該当する。これらに41・42の瘤付土器、250の加曽利B2の影響のある土器も入る様相であると考えられる。

縄文時代晩期の土器は、64・66・69・77・146が桜町遺跡出土の土器に似る。81・82・86の波状口縁頂部を面取りする御経塚式期の口縁が多く見られた。ただし吉作遺跡の場合、外面が無文か縄文という特徴は他遺跡の波状口縁の特徴と違っており、今後、他遺跡の出土土器との比較検討により、県内や北陸の様相が明らかになると思われる。

#### 第3節 イノシシ形獣面突起について

今回の調査では、包含層掘削の際にイノシシ形獣面突起が出土した(図  $24\cdot304$ 、写真図版 13 下)。出土位置はほぼ SK05 の位置にあたる。イノシシ形獣面突起は、イノシシの顔を左斜め前から見た状態を模す。一目見てイノシシと判別できるほど写実的な表現である。形態は横 4.3cm、縦 2.8cm、厚さ 1.05cmのひし形である。色調は 5YR7/6 橙色で、胎土は密、焼成は良好である。鼻部分を前方とすると、

左面は円形に粘土を貼り付けた突起と棒状工具による沈線で装飾する。ほぼ中央に棒状工具で穴を開けて目を表現する。向かって左端に円形突起を貼り付け、針状工具で2点刺突して鼻を表現する。口と想定される部分には、イノシシ特有の牙が見られないため、いわゆる「ウリボウ」と呼ばれる幼獣を表現している可能性が考えられる。右面は全面に単節縄文を斜めに施す。左面が表面で、右面が裏面と考えられる。獣面の下辺部分に接合痕があるため、土器の一部に接合していた可能性が高い。あるいは土器部分でイノシシの胴部を表現していた可能性も考えられる。イノシシ形獣面突起の時期は、小突起を多用する施文方法であること、SK05から出土した羊歯状文を施す精製の鉢が、同様の色調・焼成・胎土であることから縄文時代晩期、中屋式期と考えられる。

北陸地域の動物意匠について堀沢氏は、北陸地方の動物意匠の傾向について、(1)前期末葉に出現し、中期中葉にピークを迎え、中期後葉まで見られる、その後は後期後葉の井口遺跡まで見られず、晩期は石川県野々市市の御経塚遺跡でイノシシが確認されているのみである。(2)前期はヘビの意匠が多く、縄文時代中期になるとイノシシの動物意匠が増加する、と述べている〔堀沢 2004 b〕。

イノシシ形土製品について町田氏は、小竹貝塚出土のイノシシ形土製品について(1)イノシシの幼獣「ウリボウ」である。(2)小竹貝塚のイノシシ形土製品の時期は縄文時代前期後葉であり国内最古となる。中国では縄文時代早期~前期に併行する時期の河姆渉遺跡で出土例がある。(3)イノシシ形土製品は墓域の中でも磨製石斧を複数脇に副葬する、小竹貝塚の中では特殊な埋葬人骨の傍らから出土し、祭祀的な意味合いが強い。と分析している〔町田 2013〕。

縄文時代の全国的なイノシシの意匠について、新津健氏の論考がある〔新津 2011〕。新津氏は、イノシシ形動物意匠について、(1)縄文時代中期初頭に東日本で出現し、縄文時代後期に広域に分布する。(2)縄文時代後期~晩期のイノシシの表現について、表現の仕方(リアルさの程度)からA~D類に分類を試み、A類を「誰にでもイノシシと判断できる」写実的な表現のイノシシである、と定義した。なお、A類は縄文時代後期~晩期を通じて出土する。(3)イノシシ形土製品が出土する遺跡には偏りがあり、出土遺跡からは複数見つかる傾向が強い。このことからイノシシの動物意匠を必要としたムラ(集落)は、限られたムラの可能性がある、と述べられている。

このことから、吉作遺跡のイノシシ形獣面突起には以下の3点が言える。

- (1) 富山県内では縄文時代後期後葉の井口遺跡のイノシシ形注口土器以降、これまで未確認だった縄文時代晩期のイノシシの動物意匠であることを確認した。
- (2) 吉作遺跡のイノシシ形獣面突起は、新津氏の分類によれば、誰にでもイノシシと判断できる写実的な「A類」である。
- (3) 全国的な出土事例を考慮するとイノシシ形動物意匠は祭祀的な意味合いが強く、出土に偏りがある。SK05 は祭祀に関連する遺構であり、吉作遺跡は特殊な集落の可能性がある。

今後、県内や北陸の縄文時代晩期のイノシシ形動物意匠の類例に注目し、検討を試みたい。(細辻) **<引用・参考文献>** 

石川県教育委員会(財)石川県埋蔵文化財センター2002『金沢市 藤江 C遺跡Ⅳ・Ⅴ 第1分冊縄文時代編』

石川県教育委員会(財)石川県埋蔵文化財センター2006『加賀市 小杉遺跡』

石川県立埋蔵文化財センター 1989 『米泉遺跡』

井口村教育委員会 1980 『富山県井口村 井口遺跡発掘調査概要』

宇奈月町教育委員会 2001 『風野遺跡 ―縄文時代石器製作跡の調査―』

小矢部市教育委員会 2007 『富山県小矢部市 桜町遺跡発掘調査報告書 縄文時代編』小矢部市教育委員会

金沢市教育委員会・石川県鉄鋼団地協同組合 1992 『金沢市中屋サワ遺跡』 金沢市文化財紀要 100

金沢市教育委員会・医療法人社団扇寿会 1993 『金沢市馬替遺跡』 金沢市文化財紀要 107

金沢市(金沢市埋蔵文化財センター) 2009 『石川県金沢市 中屋サワ遺跡IV―縄文時代編―』金沢市文化財紀要 255

金沢市(金沢市埋蔵文化財センター)2010『石川県金沢市 中屋サワ遺跡 V ―縄文時代編―』 金沢市文化財紀要 262

木下哲夫 1999「酒見式土器成立の構成要件 ―土器型式内部に於ける波及と受容の様相について―」『縄文土器論集―

縄文セミナー 10 周年記念論文集―』縄文セミナーの会編

小島俊彰 1979「第3章 遺跡・遺物解説 本江遺跡」『滑川市史 考古資料編』

小島俊彰・西野秀和・酒井重洋 1994「北陸の土器編年―後期後半〜晩期中葉―」『縄紋晩期前葉 - 中葉の広域編年』

酒井重洋 1991 「3 後期 4 晚期」 『北自動車道遺跡調査報告—朝日町編 6—境 A 遺跡土器編』 富山県教育委員会

酒井重洋 1992「2 縄文時代後期中葉から晩期の土器について」『北陸自動車道遺跡調査報告―朝日町編 7―境 A 遺跡総括編』富山県教育委員会

酒井重洋 2000「富山市長岡針原遺跡(八町遺跡)出土の遺物」『大境』第 20・21 号創立 50 周年記念合併号 富山考古 学会

酒井重洋 2007 「3 桜町遺跡の縄文後期末から晩期の土器変遷について」『富山県小矢部市 桜町遺跡発掘調査報告書 縄文時代総括編』 183-206 頁 小矢部市教育委員会

**酒井重洋** 2008「中屋式土器」『総覧縄文土器』762-767 頁 (㈱アム・プロモーション

**酒井重洋** 2008「下野式土器」『総覧縄文土器』768-773 頁 (株)アム・プロモーション

財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2009 『竹ノ内Ⅱ遺跡 柳田遺跡 下山新東遺跡 下山新遺跡 発掘 調査報告書 ―北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告 I ―』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第 42 集

財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2010 『若栗中村遺跡 舌山遺跡 宮沢釈迦遺跡 発掘調査報告書 一北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅱ─』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第 46 集

縄文セミナーの会 2001 『第 14 回縄文セミナー 後期後半の再検討』

**縄文セミナーの**会 2004 『第 17 回縄文セミナー 晩期中葉の再検討』

**鈴木正博** 1999「「酒見式」への途―山内清男の「鈍行」列車に乗って北陸先史土器の旅を楽しむための行進曲―」『縄文セミナー 10 周年記念論文集―』縄文セミナーの会編

富山県埋蔵文化財センター 2010『縄文時代後期のムラ 井口遺跡 出土品集』富山県出土の重要考古資料 3

富山市教育委員会 1970 『富山市金草第一号窯跡調査報告』

富山市教育委員会 1974 『富山市杉谷地内埋蔵文化財予備調査報告書』

富山市教育委員会 1975 『富山市杉谷(A·G·H)遺跡発掘調査報告書』

富山市教育委員会 1976 『富山市古沢・金屋地内古墳概要調査報告書』

富山市教育委員会 1977 『富山市古沢遺跡概要調査報告書』

富山市教育委員会 1981 『白鳥城跡試掘調査概要』昭和 55 年度富山市埋蔵文化財調査報告 2

富山市教育委員会 1983a 『古沢 A 遺跡発掘調査概要』

富山市教育委員会 1983b『白鳥城跡試掘調査概要(Ⅱ)』

富山市教育委員会 1987「13 吉作遺跡」『富山市埋蔵文化財調査概要』 4.10-11 頁

富山市教育委員会 1998『富山市豊田大塚遺跡発掘調査概要』

富山市教育委員会・富山市埋蔵文化財調査委員会 2000a 『境野新遺跡・向野池遺跡』(仮称) 富山西インターチェンジ関連 埋蔵文化財発掘調査報告書 (2)

富山市教育委員会·富山市埋蔵文化財調查委員会 2000b 『富山市西金屋遺跡発掘調査概要』

富山市教育委員会 2002a 『富山市向野池遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告 114

富山市教育委員会 2002b 『富山市岩瀬天神遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告 121

富山市教育委員会 2002c 『富山市栃谷南遺跡発掘調査報告書Ⅲ』富山市埋蔵文化財調査報告 125

富山市教育委員会 2003『富山市開ケ丘狐谷Ⅲ遺跡・開ケ丘中山Ⅰ遺跡・開ケ丘中山Ⅳ遺跡・開ケ丘狐谷Ⅳ遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財報告 127

富山市教育委員会・環境事業団富山建設事務所 2003 『富山市長岡八町遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告 133

富山市教育委員会 2004 『開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡・開ヶ丘狐谷Ⅱ遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告 135

富山市教育委員会 2006 『富山市向野池遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告 18

富山市教育員会 2007『富山市金屋南遺跡発掘調査報告書Ⅳ』富山市埋蔵文化財調査報告 17

富山市教育委員会 2011 『富山市内遺跡発掘調査概要 V ─砂川カタダ遺跡・今市遺跡─』富山市埋蔵文化財調査報告 44 富山市教育委員会 2014 「Ⅲ 吉作遺跡」『富山市内遺跡発掘調査概要 XI』富山市埋蔵文化財調査報告 61

中村由克 2014「6 石材とその原産地の推定」『小竹貝塚発掘調査報告書-北陸新幹線に伴う埋蔵文化財発掘報告X-第二分冊 自然科学編』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第60集,公益財団法人富山県文化 振興財団埋蔵文化財調査事務所

滑川市史編さん委員会 1979 『滑川市史 考古資料編』

新津健 2011『猪の文化史考古編』雄山閣

西野秀和 2008「御経塚式土器」『総覧縄文土器』 756-761 頁 (㈱アム・プロモーション

能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団 1986 『石川県能都町 真脇遺跡』

文化庁文化財部記念物課 2010 『発掘調査のてびき』

堀沢祐一 2004a 「古代の婦負郡の祭祀場か 花の木 C 遺跡」 『富山市の遺跡物語』 No.5 富山市教育委員会埋蔵文化センター

堀沢祐一 2004b「北陸地域の動物意匠について」『考古学ジャーナル』№ 515 ニューサイエンス社

町田賢一 2013「"イノシシ形土製品"」『富山考古学研究』紀要第 16 号 (公財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

南久和 2001『編年 ―その方法と実際―』南書会





北側調査区遺構検出(西から)



南側調査区遺構検出 ( 西から )



調査区遺構検出状況 (北西から)



SX01遺物出土状況(北西から)



SKO3・SKO5遺物出土状況(東から)



調査区西側完掘(北から)



遺構検出状況 (南西から)



SXO1遺物出土状況(南西から)



調査区東側完掘(南から)



調査区北側完掘 (北東から)



調査区東側完掘 (東から)



SX01完掘(北西から)



調査区北側完掘 (北東から)



SX01完掘 (北東から)



SK03完掘(北西から)

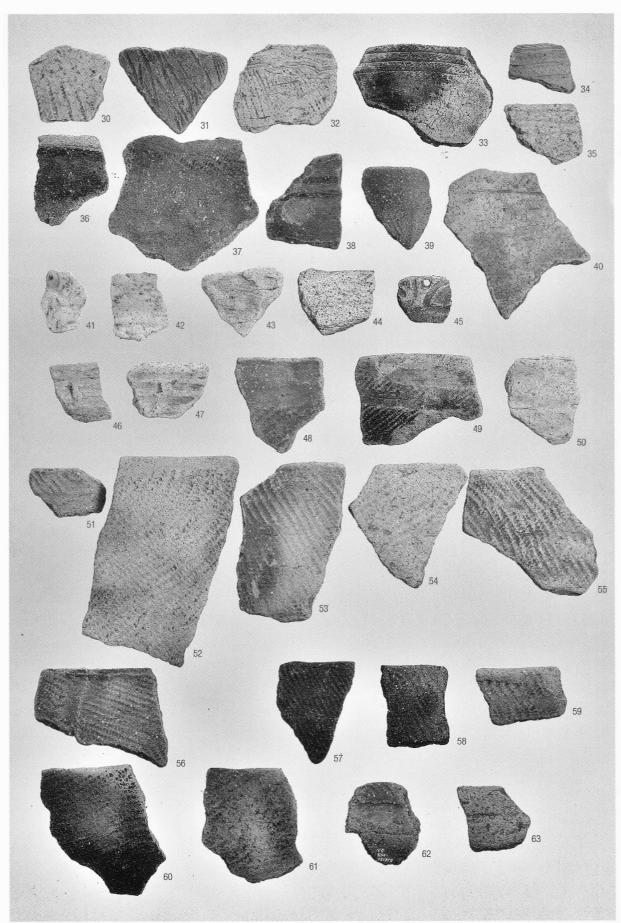


南側調査区完掘 (東から)

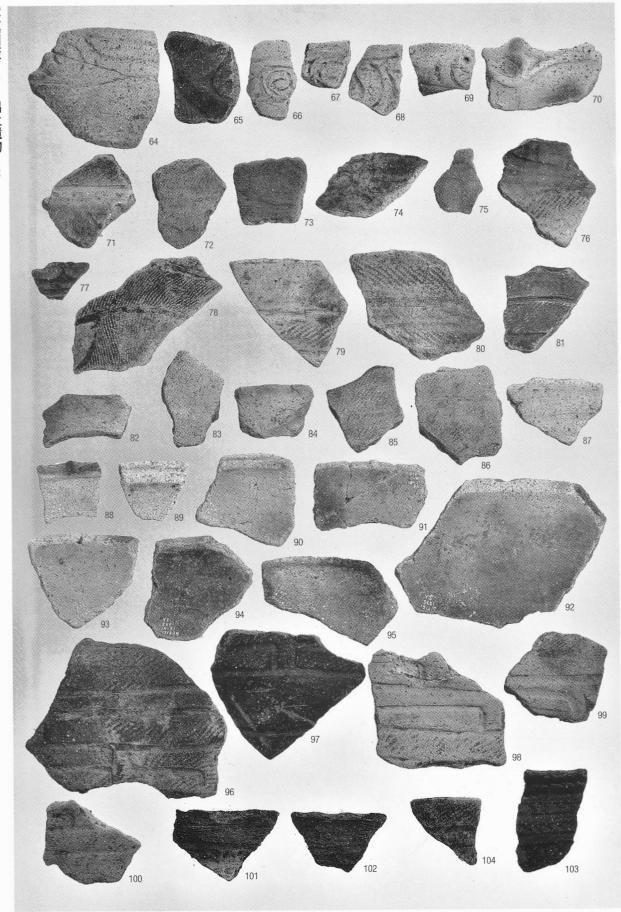


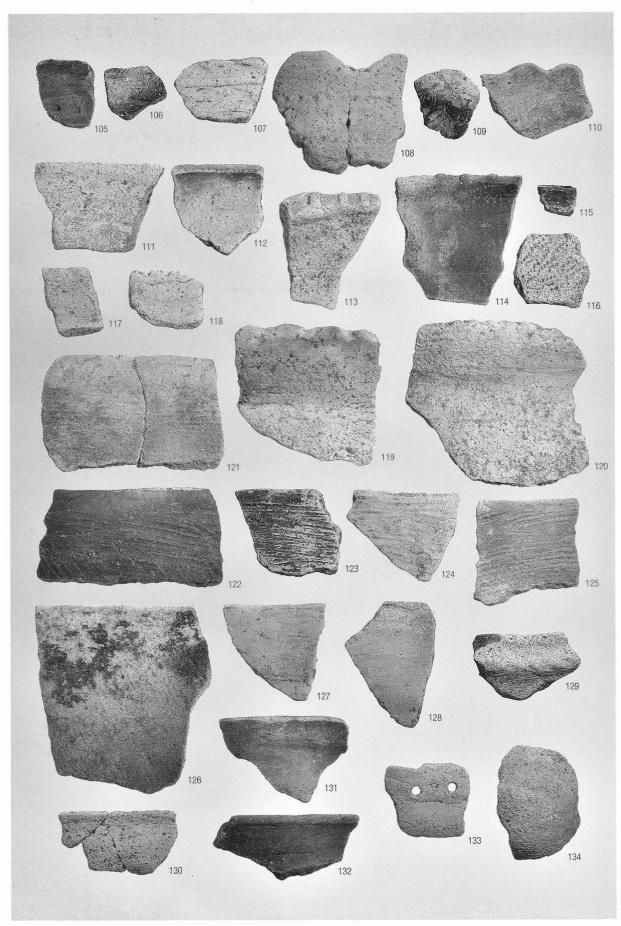
南側調査区完掘 (西から)

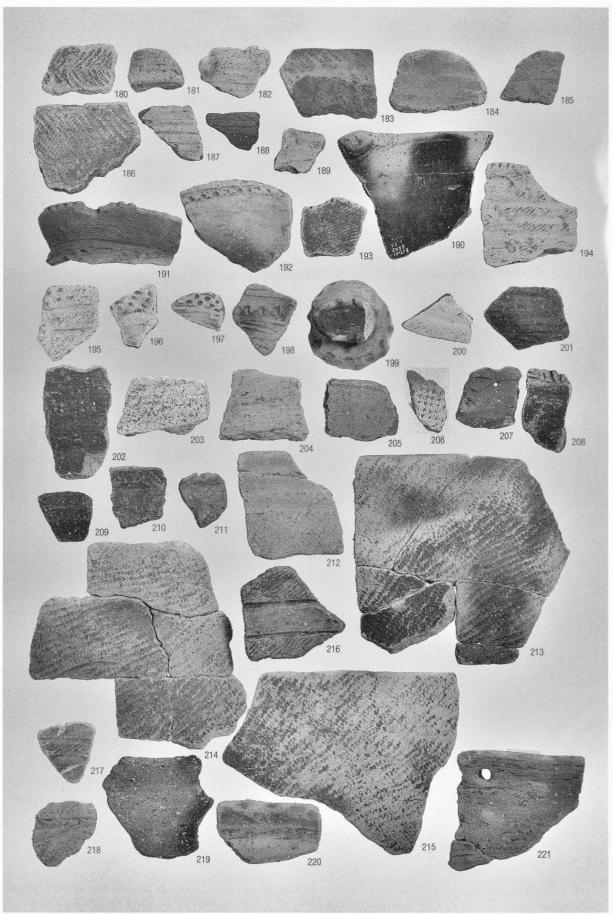
写真図版 6 出土遺物 1 12



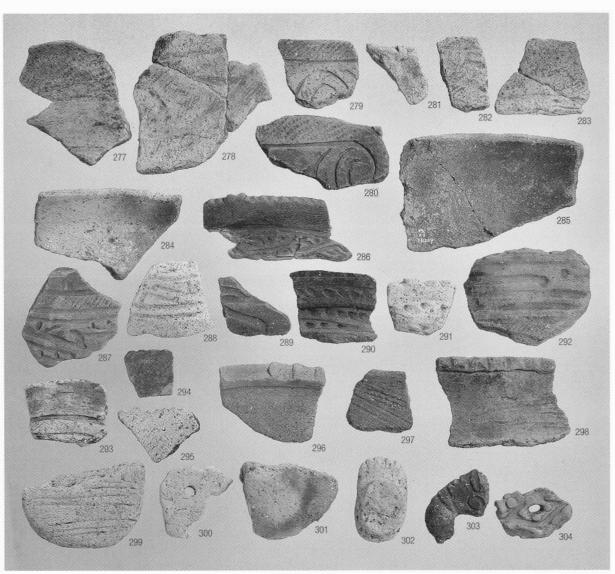
写真図版 8 出土遺物 3







写真図版 出土遺物フ 



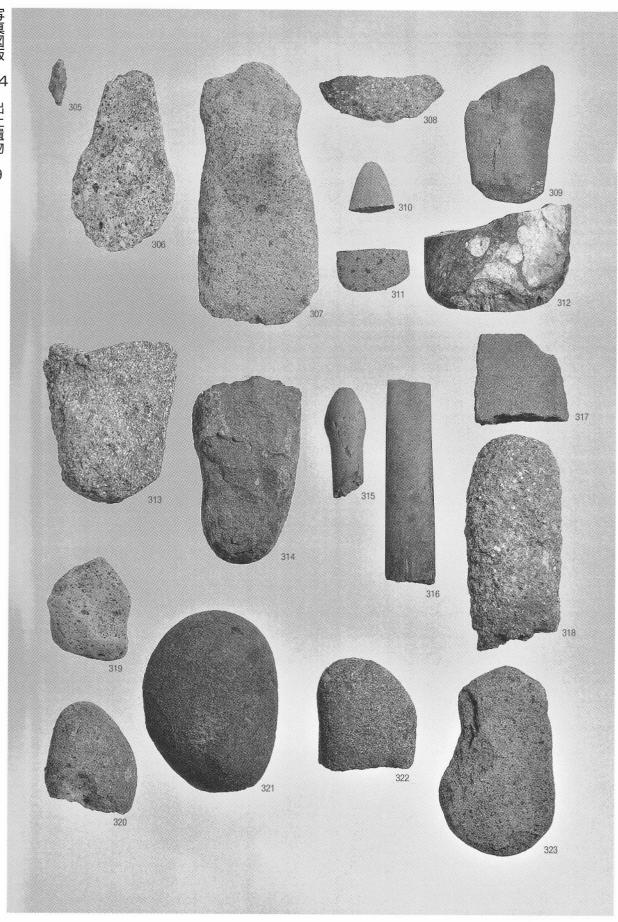








写真図版 14 出土遺物 9



# 報告 書録

				11/4									
ふりか	ぶな	とやました	ないい	せきはっく	つちょ	うさがい	よう じゅう	ろく					
書	名	富山市内边	遺跡発	:掘調査概要	X V	[							
副書	名	吉作遺跡											
シリー	ズ名	富山市埋蔵	<b></b>	財調査報告									
シリーフ	ズ番号	80											
編著	者名	細辻嘉門	・三上	.智丈・納屋	内高史	Ţ							
編集	機関	富山市教育	育委員	会 埋蔵文	化財セ	ンター	-						
編集機場	目住 所	₹930-009	1 富山	山市愛宕町1	丁目2-	24 Tel. C	076-442-4246						
発 行 年	月日	西暦2016年	年3月3	81日									
ふりがな 所収遺跡名	ふり: 所在	- 4th	5 下町村	リード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間		面積 ㎡)	調査 原因			
吉作遺跡	富山市住	吉地内 1	6201	2010111	36° 42′ 06″	137° 09′ 38″	20131205~ 20131227		65.82	個人住宅 建築			
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主	な遺物		华	寺記事項			
吉作遺跡	集落·窯	縄文後期 ・晩期		廃棄遺構・  ・ピット		シ形獣面	・土偶・イ 突起・石棒 石斧・打製石	・石	晩期 遺構	時代後期~ の土器廃棄 ・土坑を検			
		奈良・平安				須恵器・	上師器		出し	た。 			
	奈良・平安   須恵器・土師器   四した。   調査区全域で縄文時代後期中葉〜晩期中葉の遺構を確認した。調査区北西に広がる   SX01は、調査区付近が水源とみられる谷地形を利用している。出土した縄文土器はほと んど接合できないため、壊して廃棄したと考えられる。出土遺物の中には土偶や石刀、 赤彩された土器など、祭祀関係の遺物があり、水に関する祭祀が行われた後、土器は縄 文時代後期中葉〜晩期中葉を通じて壊して廃棄された遺物と推定される。												
N							国物と推定。 国から見たイ			を写実的に			

要 約

SK05付近から出土したイノシシ形獣面突起は、左面から見たイノシシの顔を写実的に表現する。縄文時代晩期のイノシシの動物意匠としては、県内初の出土例になる。イノシシに関する遺物は、祭祀に関係する遺構からの出土が多く、SK05は祭祀関係の遺構である可能性がある。また、出土遺跡が偏ることから、イノシシの動物意匠が出土した遺跡は、特殊な性格の集落の可能性がある。

調査区内には、被熱を受けた礫が多量に見られることから、竪穴建物の炉石と考えられ、調査区の山側周辺に集落が広がる可能性が高い。

富山市埋蔵文化財調査報告80

# 富山市内遺跡発掘調査概要XVI

一吉作遺跡一

発行日: 2016年(平成28)年3月31日

発 行:富山市教育委員会

編 集:富山市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒930-0091

富山市愛宕町1丁目2番24号 TEL:076-442-4246 FAX:076-442-5810

E-mail: maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印 刷:中央印刷株式会社

